

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010301

事業名		外国語教育推進事業		担当部署	教育部 指導室、学校教育課		
根拠法令							
令和3年度決算額		55,167	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	55,167	千円				
事業費（総計）		55,167	千円				
決算額		55,167	千円				
人件費		0	千円	総合評価			
B							
事業の目的		外国青年を外国語指導助手（ALT）として任用し、小・中学校の外国語教育及び放課後子ども教室やナナカマド教室での国際理解教育・外国語教育に活用します。					
事業の内容		SDGs17の目標 <ol style="list-style-type: none"> 市内全小中学校に外国語指導助手（ALT）を配置しました。 ・小・中学校の外国語活動及び外国語科での指導の補助 国際理解に関わる教育活動に外国語指導助手（ALT）を派遣しました。 ・放課後子ども教室での国際交流事業 ・ナナカマド教室での国際交流事業 ・市内幼稚園・保育所での英語に触れる活動 					
SDGs17の目標							
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
		派遣する小・中学校数	校	39	39	39	
		外国語指導助手（ALT）外部派遣数	回	43	24	-	
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性			●			小・中学校における外国語教育や、国際理解に関わる教育活動において、外国語市場助手（ALT）が有効に活用されているが、更なる有効活用が可能であるため「3」としました。	
効率性		●				各中学校区ごとに外国語指導助手（ALT）を配置し、校区内の小・中学校で調整を図って活用を進めることができたため「4」としました。	
公平性			●			各校とも、年間を通して外国語指導助手（ALT）を配置するよう努めたが、増員が完了した年度途中（11月）までは配置できない学校もあったため「3」としました。	
将来性		●				ALTの有効活用により、外国語科の授業や国際理解教育が充実し、児童生徒の国際理解、国際性育成に貢献しているため「4」としました。	
総合評価		B		項目評価のとおり、目的に応じた成果を得ることができていますが、外国語指導助手（ALT）の活用を、市内の児童生徒、及び市民の国際交流意識の向上に結び付けるために、より実効性のある取組を継続していきたいと考えております。			
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010302

事業名		いじめ問題対策事業		担当部署	教育部 指導室		
根拠法令							
令和3年度決算額		662	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	662	千円				
事業費（総計）		1,227	千円				
決算額		662	千円				
人件費		565	千円				
事業の目的		「子ども専用悩みごと相談メール・電話」、「いのちの授業」、「苫小牧市いじめ問題子どもサミット」の実施などにより、いじめの問題の根絶に向けた取組を推進します。					
事業の内容		SDGs17の目標 1 「子ども専用悩みごと相談メール・電話」を設置しました。 2 「いのちの授業」を実施しました。 3 「苫小牧市いじめ問題子どもサミット」を実施しました。					
実施結果（活動指標）							
		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
		子ども専用悩みごと相談メール・電話対応件数	件	20	21	54	
		いじめ解消率	%	100	100	100	
		いのちの授業実施校数	%	100	100	100	
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性			●			いじめの問題はいつの時代においても緊要の教育課題であり、本事業の果たす役割は大きいため「3」としました。	
効率性				●		いじめの問題の根絶は困難であり効率性が上がらない面があるが、継続して対策を講じる必要があるため「2」としました。	
公平性				●		相談できずに困っている児童生徒がいるため、多様な相談形態が必要であると同時に、いじめの未然防止の取り組みが今後も必要であるため「2」としました。	
将来性			●			効果の即効性は見えにくい事業ではあるが、いじめを生まない・許さない支持的風土を醸成するために本事業は重要であるため「3」としました。	
総合評価		B		悩みを抱える児童生徒の相談窓口として本事業の継続は不可欠だと考えます。			
特記事項							


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010303

事業名		小中学校文化活動助成		担当部署	教育部 学校教育課			
根拠法令								
令和3年度決算額		777	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円	<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> 将来性 効率性 </div>				
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	777	千円					
事業費（総計）	1,481	千円						
決算額		777	千円					
人件費		704	千円					
事業の目的		苫小牧市立小中学校における文化活動の振興を目的とした活動（学校教育活動の一環として行われる文化活動）で全道、全国大会へ出場する学校に対して、その経費の一部を補助します。						
事業の内容		SDGs17の目標  「小中学校文化活動補助基準」に基づき、予選・審査等を経て全道及び全国大会に出場する場合に、大会ごと1種目1回に限り補助します。全国大会の出場時の上限を100万円としています。 令和3年度は、吹奏楽コンクール4校4種目、北海道アンサンブルコンクール1校1種目に補助しました。						
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		全道・全国大会出場種目数			種	5	0	5
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性		●				文化振興を推進し、児童生徒の学校生活を充実させており、保護者の負担軽減ともなるため、有効性が高いと考えています。		
効率性		●				文化活動に係る全国・全道大会に出場する際に一部の補助を行っており、効率性が高いと考えています。		
公平性		●				文化活動に係る全国・全道大会に出場する際に補助を行っており、補助基準が一律であるため公平性が高いと考えています。		
将来性		●				苫小牧市立小中学校における文化活動の振興を目的とした活動（学校教育活動の一環として行われる文化活動）で全道、全国大会へ出場する学校に対して、その経費の一部を補助しており、保護者負担が軽減されることもあり、将来性が高いと考えています。		
総合評価		A				合唱や吹奏楽など文化活動を行う児童生徒の学校生活を充実させ、保護者の負担軽減を図るために必要です。		
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010304

事業名		学校評議員事業		担当部署	教育部 学校教育課			
根拠法令		学校教育法施行規則第49条						
令和3年度決算額	1,068	千円	項目評価	<p>有効性 将来性 効率性 公平性</p>			総合評価 A	
財源内訳	国道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	1,068	千円					
事業費（総計）	1,138	千円						
決算額	1,068	千円						
人件費	70	千円						
事業の目的	学校運営に保護者や地域住民の意見を取り入れ、地域と連携した教育活動を展開するなど「開かれた学校づくり」を推進するため、市内小中学校に学校評議員を設置します。							
事業の内容	SDGs17の目標 <p>各小中学校長の推薦により各校3名を委嘱し学校に配置しています。</p> <p>令和3年度 95名（うち6名報酬受取辞退） （報酬1,000円×12ヵ月×89名＝1,068,000円）</p> <p>各学校では、年6～10回程度の評議員会議等を開催し、学校の行事や取組への評価や要望、地域や家庭での児童生徒の様子、PTA活動の提言など幅広い意見をいただいています。</p>							
実施結果（活動指標）	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度		
	学校評議員数		人	95	93	97		
項目評価	高→低			評価の理由				
	4	3	2	1				
有効性	●				各学校の教育活動の充実のために高い効果があると考えています。			
効率性	●				学校行事や取組の評価を適切にいただき、次年度への改善につなげています。			
公平性		●			各校3名の評議員の配置を基本としていますが、欠員により2名体制の学校が1校ありました。			
将来性		●			コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の全校導入を令和5年度から実施し、令和4年度末をもって、学校評議員を廃止をします。			
総合評価	A			当事業については、令和5年度からのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の全校導入により、今後はコミュニティ・スクール事業へ吸収されますが、引き続き教育活動の充実につなげてまいります。				
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010305

事業名		平取養護学校週末帰省用送迎バス運行事業補助		担当部署	教育部 学校教育課		
根拠法令							
令和3年度決算額		1,500	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	1,500	千円				
事業費（総計）		2,204	千円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 総合評価 A </div>			
決算額		1,500	千円				
人件費		704	千円				
事業の目的		平取養護学校に在籍し寄宿舎生活している児童生徒の保護者に対して、週末帰省用バス運行に係る費用の一部を補助し、保護者の負担軽減を図ります。					
事業の内容		SDGs17の目標 <p>平取養護学校に在籍し寄宿舎生活をしている児童生徒が週末に自宅へ帰省する際に、同校父母の会が運営する「帰省用送迎バス運行事業」の運営費の一部を補助しています。補助額については、平取町や父母の会との協議により決定しています。</p>					
実施結果（活動指標）							
		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
		本市からの児童生徒数	人	35	39	42	
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性		●				経済的な負担の軽減により、子どもたちにとって適切な学びの場である養護学校を安心して選択することができる効果は高いと考えています。	
効率性		●				児童生徒の就学機会の拡充と保護者の負担軽減を目的としており、効率性は高いと考えています。	
公平性		●				児童生徒の就学機会の拡充と保護者の負担軽減を目的としており、公平性は高いと考えています。	
将来性		●				保護者の経済的な負担の軽減により、子どもたちにとって適切な学びの場である養護学校を安心して選択することができることから、将来性は高いと考えています。	
総合評価		A		一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな支援を受けられることや、寄宿舎生活を通じ自立的に生活する力を養うために平取養護学校を選択する保護者は多く、今後も児童生徒の就学機会の拡充と保護者の負担軽減のための補助が必要です。			
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010306

事業名		スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業		担当部署	教育部 指導室						
根拠法令											
令和3年度決算額		10,496	千円	項目評価							
財源内訳	国道支出金	968	千円	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 将来性 効率性 </div> <div style="text-align: center;"> </div>							
	地方債		千円								
	その他		千円								
	一般財源	9,528	千円								
事業費（総計）		37,730	千円								
決算額		10,496	千円								
人件費		27,234	千円								
						総合評価					
						B					
事業の目的		いじめ、不登校、暴力行為、虐待等、問題を抱えている児童生徒やその家庭に支援し、社会的環境を改善します。									
事業の内容 SDGs17の目標		 <p>1 SSW8名を配置しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校の訪問を実施 ・学校や保護者から要請があった家庭に対し、教育の専門知識に加え、社会福祉等の専門的知識・技能を用いて児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけました。 									
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度			
		相談件数			件	641	591	658			
		支援件数			件	118	162	137			
		ケース会議開催件数			件	53	99	117			
項目評価		高一低				評価の理由					
		4	3	2	1						
有効性			●						課題を抱えている児童生徒や保護者が多く、課題解決のために関係機関との適切な接続・連携には本事業の有効性は高いため「3」としました。		
効率性				●					解決困難な事例が多く効率性が上がらない面があるため、費用対効果による評価は馴染まない事業であるといえるため「2」としました。		
公平性			●						学校、児童生徒、保護者、関係機関等、様々な背景を押さえながら複数の視点で支援していくため「3」としました。		
将来性		●				本市の不登校、虐待、課題を抱えている児童生徒や保護者等の実態を鑑みて、学校だけの解決は困難であるため継続して実施していく必要があるため「4」としました。					
総合評価		B				項目評価のとおり概ね目的に適った事業を展開できていますが、より効果的な事業とするため、担当SSWの力量によらないアセスメント・プランニングが可能となる取組を実施していきたいと考えています。					
特記事項											

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010307

事業名		学力向上推進事業		担当部署	教育部 指導室、学校教育課				
根拠法令									
令和3年度決算額		1,825	千円	項目評価					
財源内訳	国道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源	1,825	千円						
事業費（総計）		8,868	千円	総合評価	B				
決算額		1,825	千円						
人件費		7,043	千円						
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の取組として、指導資料の作成や研修講座を開設し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修を推進します。 全国学力・学習状況調査等の結果に基づく課題を踏まえて、外部講師等を招聘した研修会を実施するとともに、本市の授業改善の推進を中心となって担う教員が先進地を視察します。 							
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 先進地視察の実施 対象：市内の授業改善を中心的に担う教員 目的：明らかになっている本市の課題を解決するための指導資料の作成や実践的な研修講座の開設に向けて、先進的な取組を行っている地域を視察します。 指導資料「授業改善Leaf」「ICT活用Leaf」の作成 対象：市内の小・中学校教員 目的：全国的な調査・検査から明らかになった課題を中心に、国語科や算数・数学科、外国語、道徳、ICT活用等における実践例などをまとめ、日々の授業改善に生かす資料とします。 実践的な研修講座の開設 対象：市内小・中学校教員 目的：指導資料「苦小牧っ子学力UP！ハンドブック」や「授業に基づいて、長期休業中に、苦小牧市教育研究所において授業づくりに関する実践的な講座を開設します。 家庭教育情報紙の作成 対象：市内小・中学校児童生徒の保護者 目的：学校と家庭・地域が子どもの学びに関する課題を共有し、一貫した指導を行うために生活習慣・体力向上・家庭学習に関することなど様々な情報を提供します。 							
実施結果（活動指標）		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度	
		「授業改善Leaf」「ICT活用Leaf」の発行数			回	11	6	7	
		実践的な研修講座の参加人数			人	221	262	176	
		家庭教育情報紙「ほむすく」の発行回数			回	5	5	5	
項目評価		高→低		評価の理由					
		4	3	2	1				
有効性		●				学習指導要領の趣旨を踏まえた「指導と評価の一体化」の実現に向けた授業改善を推進することができたため「4」としました。			
効率性		●				オンラインによる研修講座や、授業公開及び研修を開催する等、教員が自校で研修を行うことができる体制を整えることができたため「4」としました。			
公平性				●		感染症拡大の影響により、予定していた先進地視察を取り止める等、計画通り視察を実施することができなかったため「2」としました。			
将来性			●			タブレット型学習用端末の活用に係る指導資料の作成等、令和の日本型教育で求められる内容について情報提供を行うことができたため「3」としました。			
総合評価		B		項目によって、目的に応じた成果を得られた取組と、課題が残る取組があったことから、今後も持続可能な取組を検討し、継続していきたいと考えております。					
特記事項									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010308

事業名		苦小牧市統一学力検査事業		担当部署	教育部 指導室、学校教育課				
根拠法令									
令和3年度決算額		5,807	千円	項目評価				総合評価 B	
財源内訳	国道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源	5,807	千円						
事業費（総計）		5,807	千円						
決算額		5,807	千円						
人件費		0	千円						
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> 本市の小学4年、5年、6年、中学1年、2年の児童生徒を対象に全国標準学力検査を実施し、全国基準に照らして客観的に把握するとともに、「苦小牧市学力向上アクションプラン」に基づいた授業改善に務めます。 複数学年にわたる学力実態を把握する一助とします。 							
事業の内容 SDGs17の目標		<p>1 「苦小牧市統一学力検査」の実施 対象：小学校第4学年、小学校第5学年、小学校第6学年 中学校第1学年、中学校第2学年 内容：国語及び算数・数学の全国標準学力検査（目標準拠評価方式）</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施するテストは民間業者が作成した学力検査を活用し、採点・集計・各種データの作成も含まれます。 							
実施結果 (活動指標)		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度		
		受検者数		人	7,004	実施なし	7,164		
		活用講習会参加校		校	38	実施なし	38		
		各学校による結果及び考察の公表数		校	38	実施なし	38		
項目評価		高→低		評価の理由					
		4	3	2	1				
有効性		●				実施した全校で結果の考察を実施し、課題について把握しました。出てきた課題については、具体的な対策を講じて、改善できることから「4」としました。			
効率性			●			単価390円であり、必要最低限の経費で実施することができているため、「3」としました。			
公平性			●			小学4年生から中学2年生まで全員を対象としていることから、「3」としました。			
将来性			●			本事業は、継続して実施することで同一集団の経年比較からより細かな分析をすることができることから、「3」としました。			
総合評価		B		全国基準に本市の児童生徒の学力を把握することができており、市教委や各学校で見えてきた課題を改善しようと、授業改善や保護者への学習アドバイスを行うことができています。					
特記事項									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010309

事業名		校務用パソコン整備事業		担当部署	教育部 総務企画課			
根拠法令								
令和3年度決算額		96,780	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	96,780	千円					
事業費（総計）		107,345	千円					
決算額		96,780	千円					
人件費		10,565	千円					
事業の目的		市内全小中学校の教職員のパソコン一人一台配備、学校間専用ネットワークの敷設・運用及び校務支援システム等業務システムを導入します。						
事業の内容		<p>【平成27年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校間の専用ネットワーク（教育LAN）の構築 <p>【平成28年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務用ノートPCの調達・配備 ・ モバイルデータ通信契約 ・ 資産管理ソフト、指紋認証デバイスなどセキュリティ対策 ・ 教育LANサーバホスティングの準備・調整・契約 ・ グループウェア利用開始 ・ 教育LAN運用監視・ヘルプデスク業務の委託契約 等 <p>【平成29年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システム利用開始 ・ 市役所ネットワーク（全庁LAN）からの完全分離（ネットワーク強靱化対策） <p>【平成30年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務用ノートPCの追加配備（校長、養護教諭、栄養教諭） <p>【令和元・2年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備済み端末の保守・運用 <p>【令和3年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備済み端末の保守・運用 ・ モバイルデータ通信、資産管理ソフト保守、サーバホスティングの契約更新 						
SDGs17の目標								
実施結果（活動指標）		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		事業達成率			%	100	100	100
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性		●				校務におけるICT環境の整備を行うことで、校務の効率化とあわせて情報漏えい等のセキュリティリスクの低減を達成することができたため「4」としました。		
効率性		●				ネットワークやファイルサーバの集約などにより、効率的な運用を行うことができていたことから「4」としました。		
公平性		●				市内小中学校の教員が同じICT環境・サービスを利用することにより、校務の効率化に寄与していることから「4」としました。		
将来性		●				本事業により整備した校務環境は、将来にわたって校務の効率化、セキュリティの確保に資することから「4」としました。		
総合評価		A				本事業は小中学校における校務の効率化やセキュリティの強靱化、教員のICTリテラシー向上などに大きく寄与していることから、引き続き本市のICT教育の推進のため、本事業を実施していきます。		
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010310

事業名		小学校用教科用図書採択事業		担当部署	教育部 学校教育課							
根拠法令		義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律等										
令和3年度決算額		0 千円		項目評価								
財源内訳	国道支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円										
事業費（総計）		0 千円		<table border="1"> <tr> <td>総合評価</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em; text-align: center;">A</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>0 千円</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>0 千円</td> </tr> </table>			総合評価	A	決算額	0 千円	人件費	0 千円
総合評価	A											
決算額		0 千円										
人件費		0 千円										
事業費（総計）		0 千円										
人件費		0 千円										
事業の目的		<p>【義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令 第14条】により、教科書の採択期間は4年間と定められており、学校教育法附則第9条第1号の一般図書について、一般図書一覧に記載の図書の増加にともない追加分の採択を行います。教科用図書に関する専門的な調査研究と意見を聴取することを目的とし、苫小牧市教科用図書調査研究委員会を設置します。</p>										
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p>  <p>令和3年度は、追加になった一般図書等がないため、実施無し。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書展示会の開催 2 調査研究委員の委嘱 3 調査研究委員会の開催 4 教科用図書の採択 										
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度				
		調査研究委員会開催回数			回	0	3	3				
		展示会意見件数			件	0	153	137				
項目評価		高→低				評価の理由						
		4	3	2	1							
		有効性	●							児童生徒の実態に合わせた教科用図書を採択することから、有効性が高いと考えているため、「4」としました。		
		効率性							●	令和3年度は追加になった一般図書等がなく、採択の実施無しのため、「1」としました。		
		公平性	●							教科書採択において、公正性及び透明性が求められおり、公正確保の徹底を務めるため、「4」としました。		
将来性	●				本事業においては、生徒が使用する教科用図書を採択し、学校教育活動に大きくつながるため、「4」としました。							
総合評価		A				法令に基づき実施するものであり、義務教育を行うにあたり教科用図書を適正に採択することは極めて重要であると考えています。また、項目評価のとおり目的に適った事業を展開できると思います。						
特記事項												

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010311

事業名		コミュニティ・スクール（CS）事業		担当部署	教育部 学校教育課				
根拠法令		地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5							
令和3年度決算額		122	千円	項目評価					
財源内訳	国道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源	122	千円						
事業費（総計）		192	千円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">総合評価 A</div>					
決算額		122	千円						
人件費		70	千円						
事業の目的		平成27年度策定の苫小牧市教育大綱をより具現化した、苫小牧市学校教育マスタープランの取組の1つである「学校・家庭・地域社会が連携した信頼される学校づくりの推進」を実現させるため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入します。							
事業の内容 SDGs17の目標 		<p>【勇払地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会設置（4月） ・学校運営協議会委員の任命（4月） ・第1回学校運営協議会（5月） ・小中合同ゴミ拾い、SDGs海岸清掃（7月） ・夏季休業中学習会（7月） ・第2・3回学校運営協議会（10月） ・冬季休業中学習会（12月） ・第4回学校運営協議会（R4年2月） <p>【開成中学校区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会設置（4月） ・学校運営協議会委員の任命（4月） ・第1回学校運営協議会（5月） ・第2回学校運営協議会（8月） ・第3回学校運営協議会（R4年2月） 							
実施結果 (活動指標)		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度		
		CS設置地区数		地区	2	2	-		
		CSモデル地区数		地区	-	-	2		
項目評価		高→低		評価の理由					
		4	3	2	1				
有効性		●				小・中学校相互の授業参観交流や地域の伝統芸能継承活動など、地域と学校の協力・連携のもと、CS関連事業が順調に進められています。			
効率性		●				地域と連携した学校運営を進めることにより、安心安全の学校づくりを進めることができるためです。			
公平性			●			モデル地区として平成30年度から順番に2地区で導入し、令和2年度からCS本実施としました。現在一部の地区のみの実施のため、評価を3としています。			
将来性		●				他の地区でのCS導入に向けて、模範となる取り組みを実施しています。次年度は全地区導入を実施予定としています。			
総合評価		A		2地区でCSを導入し、地域と連携した学校づくりを進めてきました。次年度から市内全域でのCS導入を予定しており、地域と密接した学校づくりを一層進めていきます。					
特記事項									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010312

事業名		学習用ICT環境整備事業		担当部署	教育部 総務企画課			
根拠法令								
令和3年度決算額		178,310	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金	500	千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	177,810	千円					
事業費（総計）		188,875	千円					
決算額		178,310	千円					
人件費		10,565	千円					
事業の目的		コンピュータ教室のPCおよびサーバの更新をはじめ、2020年度からの新学習指導要領に沿った教育に必要なICT環境を整備します。また、GIGAスクール構想への対応に必要な情報機器やネットワーク環境の整備を進めるとともに、休校時の学びの保障として、家庭学習への対応を見込んだ機器・教材の導入を行います。						
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p>  <p>【令和2年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用タブレットPCの1人1台化 ・タブレット用充電保管庫の整備 ・小中学校特別教室等へのWi-Fi環境整備 ・モバイルWi-Fiフィルターの整備 ・メール配信システムの更新 ・中学校普通教室への大型モニター整備 ・オンライン教材サービスの導入 <p>【令和3年度事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利活用に係る教員研修、サポート ・整備済み端末の保守・運用 ・端末持ち帰りに向けた環境整備及びモバイルWi-Fiフィルターの貸与 						
実施結果（活動指標）		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		事業達成率			%	100	100	100
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性		●				昨年度整備した学習用タブレットPCやオンライン教材の活用を推進し、本市のICT教育の推進に大きく寄与したため「4」としました。		
効率性		●				国の各種補助金等の活用により、本市の費用負担を大きく低減することができたため「4」としました。		
公平性		●				非常時における学習用タブレットPCの持ち帰りについて、通信環境が無い家庭への支援を行うなど公平なICT機器の活用機会の確保を達成することができたため「4」としました。		
将来性		●				本市の将来を担う子どもたちへICT教育環境の整備・活用を推進することができたため「4」としました。		
総合評価		A				学校におけるICT環境の整備・活用を大きく推進することができました。引き続き教員への継続的なサポートをするとともに、児童生徒の学習活動におけるICT機器の活用機会充実に向けて事業を実施していきます。		
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 03教育指導費

事務事業番号 10010313

事業名		不登校対策事業		担当部署	教育部 指導室			
根拠法令								
令和3年度決算額		537	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円	<div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px;">総合評価 B</div>				
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	537	千円					
事業費（総計）	7,580	千円						
決算額	537	千円						
人件費	7,043	千円						
事業の目的		不登校児童生徒を対象とした学校適応指導教室を運営や不登校対策モデル校を小中各1校指定し、校内での居場所づくりや学習支援などの対策を強化するなど、集団生活の適応や学校復帰を目指した支援・指導を行います。						
事業の内容 SDGs17の目標		 <ol style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒を対象とした学校適応指導教室を運営しました。 不登校対策モデル校を小中各1校指定しました。 学校適応指導教室専任指導員が不登校巡回相談を行いました。 						
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		学校適応指導教室入級児童生徒数			人	44	31	32
		専任指導員による巡回相談実施校率			%	100	100	100
項目評価		高→低 4 3 2 1				評価の理由		
有効性			●			不登校児童生徒に対する学びの保証に向けて、学校適応指導教室や校内での支援体制の確立は不可欠であるため「3」としました。		
効率性			●			集団適応の難しい児童生徒に対して、段階的な学びの場として学校適応指導教室を利用して学級へ復帰する生徒が増えているため「3」としました。		
公平性			●			学校適応指導教室の設置場所を中央地区1カ所に加えて、東側に2カ所目を設置したため。東西に広い本市にあっては複数の開設が改善に向かうと考えられるため「3」としました。		
将来性		●				不登校児童生徒は年々増加傾向にあり、多様な学びの場や学びの形の整備を早期に進めていく必要があるため「4」としました。		
総合評価		B				学校適応指導教室に通級することで、学校復帰や不登校の状態が改善した児童生徒がみられ、不登校児童生徒に対する支援の充実に貢献しています。		
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 04給食共同調理場費

事務事業番号 10010401

事業名		新第2学校給食共同調理場整備事業【継続事業】		担当部署	教育部 学校給食共同調理場			
根拠法令		学校給食法						
令和3年度決算額	1,518,728	千円	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px;">項目評価</div> <div style="margin-left: 20px;">総合評価</div> </div>					
財源内訳	国道支出金	458,589						千円
	地方債	883,700						千円
	その他							千円
	一般財源	176,439						千円
事業費（総計）	1,532,814	千円	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px;">将来性</div> <div style="margin-left: 20px;">効率性</div> </div>					
決算額	1,518,728	千円						
人件費	14,086	千円						
事業の目的	「学校給食衛生管理基準」、「大量調理施設衛生管理マニュアル」等に沿った高い衛生管理が可能な新調理場を建設します。							
事業の内容	<p>SDGs17の目標</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> </div> <p>施設を建設し、令和3年度3学期に供用開始しました。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div>							
実施結果（活動指標）	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度		
項目評価	高→低		評価の理由					
	4	3	2	1				
有効性	●				新しい第2学校給食共同調理場が完成し、学校給食の充実が図られました。			
効率性	●				設計・施工一括発注方式プロポーザルを選択し、事業を効率的かつ迅速に進め、事業期間を短縮化しました。			
公平性		●			新しい第2学校給食共同調理場完成後に提供する学校給食は、西地区にある小中学校の児童生徒が喫食するものであり、その利益は広く行きわたります。			
将来性	●				新たに学校給食共同調理場を建設したことにより、長期にわたって充実した学校給食を提供することができます。			
総合評価	A		新しい第2学校給食共同調理場が完成し、あえ物の提供、アレルギー対応食の拡充等学校給食の充実が図られました。					
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 04給食共同調理場費

事務事業番号 10010402

事業名		学校給食用食器更新事業		担当部署	教育部 学校給食共同調理場						
根拠法令		学校給食法									
令和3年度決算額	1,663	千円	項目評価				総合評価				
財源内訳	国道支出金	千円									
	地方債	千円									
	その他	300 千円									
	一般財源	1,363 千円									
事業費（総計）	3,424	千円									
決算額	1,663	千円									
人件費	1,761	千円									
							A				
事業の目的	使用していた学校給食用食器の更新事業で、更新方法を見直し、単年度事業費の圧縮及び市費負担の軽減を図ります。										
事業の内容	<p>SDGs17の目標</p> <p>購入による一括更新からリースによる更新に見直し、単年度事業費の圧縮を図りました。また、学校給食配送車両に広告を掲載することにより、市費負担の軽減を図りました。</p>										
実施結果 (活動指標)	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度					
項目評価	高→低				評価の理由						
	4	3	2	1							
	有効性	●							新品の食器を使うこととなり、より衛生的になりました。		
	効率性	●							広告収入を充てることにより、市費の負担を軽減しました。		
	公平性	●							学校給食を提供する全ての学校の食器を更新することができました。		
将来性	●				長期継続契約により定期的な更新をすることとなりました。						
総合評価	A				プロポーザル方式により食器リース契約の相手方を選定したことにより、広告収入を得られたほか、当該相手方である共同企業体の社会貢献・地域貢献の一環として、古い食器のリサイクル、地元企業をスポンサーとしたクリアファイルの作成・新入生への配付を行っていただきました。						
特記事項	令和3年度広告料収入は、300千円。										

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 04給食共同調理場費

事務事業番号 10010403

事業名		第1学校給食共同調理場調理設備等整備事業		担当部署	教育部 学校給食共同調理場						
根拠法令		学校給食法									
令和3年度決算額		77,195	千円	項目評価							
財源内訳	国道支出金	45,863	千円								
	地方債	12,800	千円								
	その他		千円								
	一般財源	18,532	千円								
事業費（総計）		78,956	千円	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">総合評価</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; font-size: 2em;">A</td> </tr> </table>				総合評価		A	
総合評価											
A											
決算額		77,195	千円								
人件費		1,761	千円								
事業の目的		第1学校給食共同調理場であえ物を調理するために必要な設備・機器等の整備を行います。									
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>第1学校給食共同調理場内のあえ物調理用スペースにおいて、電気・機械設備工事を行い、必要となる設備を設置し、併せて備品や消耗品（食缶など）を購入しました。</p>									
実施結果（活動指標）											
		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度				
項目評価		高→低				評価の理由					
		4	3	2	1						
有効性		●						<p>第1学校給食共同調理場においてあえ物を調理できるようになりました。</p> <p>入札等競争性のある調達を可能な限り行いました。</p> <p>第1学校給食共同調理場が担当する全ての学校にあえ物を提供しています。</p> <p>長期にわたり学校給食であえ物を提供いたします。</p>			
効率性		●									
公平性			●								
将来性		●									
総合評価		A				<p>本事業により、第1学校給食共同調理場においてあえ物を調理できるようになり、学校給食の質の向上を図ることができました。</p>					
特記事項		決算額については、第1学校給食共同調理場設備等整備事業【繰越明許】の事業費を含んでいます。									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費 項 01教育総務費 目 04給食共同調理場費 事務事業番号 10010404

事業名		学校給食費管理システム移行事業		担当部署	教育部 学校給食共同調理場				
根拠法令		学校給食法							
令和3年度決算額		12,811	千円	項目評価				総合評価 A	
財源内訳	国道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源	12,811	千円						
事業費（総計）		17,741	千円						
決算額		12,811	千円						
人件費		4,930	千円						
事業の目的		学校給食費の請求・収納の管理を行う現行システムの契約期間が令和4年3月末をもって終了することに伴い、システム利用料が低廉な総合行政システムに移行することを目的としています。							
事業の内容 SDGs17の目標		<p>学校給食費管理システムの設計・開発と現行データの移行作業を行い、総合行政システムを利用する管理方法に変更することでシステム管理に要する経費の削減を図ります。</p> <p>※稼働後のシステム運用経費月額87千円</p>							
実施結果 (活動指標)		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度		
		給食費管理者数		人	14,246	14,359	14,510		
		給食費管理金額（収入）		千円	801,490	811,369	819,808		
		システム管理委託料（月額）		千円	360	360	360		
項目評価		高→低			評価の理由				
		4	3	2				1	
有効性			●						システム利用に要する経費を圧縮することができました。
効率性			●						給食費の管理が効率的に行えるようになりました。
公平性		●							未納状況などを速やかに確認・対応できるようになりました。
将来性			●			関係課との連携に発展性のあるシステムとなっています。			
総合評価		A			システム移行が終了したことから本事業は廃止となります。				
特記事項									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費 項 01教育総務費 目 04給食共同調理場費 事務事業番号 10010406

事業名		学校給食新型コロナウイルス対策事業【繰越明許】		担当部署	教育部 学校給食共同調理場						
根拠法令		学校給食法									
令和3年度決算額	20,560	千円	項目評価				<table border="1"> <tr> <th colspan="2">総合評価</th> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; font-size: 2em;">A</td> </tr> </table>	総合評価		A	
総合評価											
A											
財源内訳	国道支出金	12,036	千円								
	地方債		千円								
	その他		千円								
	一般財源	8,524	千円								
事業費（総計）	22,321	千円									
決算額	20,560	千円									
人件費	1,761	千円									
事業の目的	配膳用トレーを購入し、1回の往復で給食を配膳することができるようにして児童生徒の密集を防ぎ、新型コロナウイルス感染予防を図ります。また、学校給食共同調理場職員等が新型コロナウイルスに感染し、調理場等で学校給食の調理ができない場合に提供する非常食を備蓄します。										
事業の内容	<p>SDGs17の目標</p> <p>小学校にトレー、中学校に脇取盆を配付するとともに、消毒用のアルコールも配りました。また、全ての学校に御飯入りレトルトカレーなど非常食を購入し、全学校に備蓄しました。</p>										
実施結果 (活動指標)	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度					
項目評価	高→低				評価の理由						
	4	3	2	1							
	有効性	●							配膳時に「密」が生じないよう学校にトレー・脇取盆を配付しました。また、非常食を備蓄することにより、不測の事態で学校給食を調理することができないときにも対応できるようになりました。		
	効率性	●							入札等競争性のある調達を可能な限り行いました。		
	公平性	●							全学校に、トレーや脇取盆を配付し、非常食を備蓄しました。		
将来性	●				トレー等は長期の使用ができるものを購入しました。また、非常食もレトルトであり、一定期間保存することができます。						
総合評価	A				国からの交付金を活用し、学校給食における新型コロナウイルス感染症対応をすることができました。						
特記事項											


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 05諸費

事務事業番号 10010501

事業名		教育施設整備基金積立金		担当部署	教育部 総務企画課				
根拠法令		苫小牧市教育施設整備基金条例							
令和3年度決算額	345,880	千円	項目評価				<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; text-align: center;">A</td> </tr> </table>	総合評価	A
総合評価									
A									
財源内訳	国道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他	80	千円						
	一般財源	345,800	千円						
事業費（総計）	346,584	千円							
決算額	345,880	千円							
人件費	704	千円							
事業の目的	本市における大学教育の振興並びに本市の学校教育及び社会教育等の推進を図るため設置した基金の積立金です。								
事業の内容 SDGs17の目標	 <p>令和2年度末基金残高 180,780,054円 令和3年度基金積立金 345,880,558円 令和3年度基金取崩し額 0円（出納整理期間中を含む。） 令和3年度末基金残高 526,660,612円</p>								
実施結果 (活動指標)	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度			
	基金の年度末残高		千円	526,661	180,780	252,714			
項目評価	高→低				評価の理由				
	4	3	2	1					
	有効性	●							教育施設の整備・維持のための財源として活用しているため「4」としました。
	効率性	●							本基金の積み立てにより、今後必要となる教育施設の整備・維持のための効果が期待できることから「4」としました。
	公平性	●							教育施設の整備・維持のために広く活用できていることから「4」としました。
将来性	●				将来にわたる教育施設の整備・維持のため、基金の積み立てが必要になることから「4」としました。				
総合評価	A				今後必要となる教育施設の整備・維持における費用を積増しすることができました。				
特記事項									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 05諸費

事務事業番号 10010502

事業名		フッ化物洗口事業		担当部署	教育部 学校教育課		
根拠法令							
令和3年度決算額		879	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	879	千円				
事業費（総計）		1,583	千円				
決算額		879	千円				
人件費		704	千円	総合評価			
				A			
事業の目的		小学生のう歯（むし歯）予防促進と生涯を通じた歯の健康づくりのため、市内小学校の保護者が希望する児童に対してフッ化物洗口を実施します。また、う歯予防の推進と歯の健康づくりへの意識の高揚につながるものです。					
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>平成24年度からモデル校で開始し、平成27年度からは全24小学校で実施しました。</p> <p>実施校においては、保護者が希望する児童が週1回程度、朝や昼の時間帯にフッ化物洗口液による、1分間のぶくぶくうがいを行います。</p> <p>※ 令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。</p>					
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
		実施率	%	0	0	93.72	
		う歯数（小学校平均）	本	0.32	0.32	0.37	
		12歳児う歯数	本	0.79	0.89	0.98	
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性		●				12歳児及び小学生のう歯数が減少していることからわかるように、今後も実施することの有効性は高いと考えているため、「4」としました。	
効率性			●			令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しましたが、令和4年度からの事業再開に向けて準備してきたため「3」としました。	
公平性		●				希望する児童の実施ですが、希望者は全員実施のため公平性は高いと考えているため、「4」としました。	
将来性		●				更なる、う歯数減少及び歯の健康づくりへの意識高揚のために、継続して事業を実施していく必要があると考えているため、「4」としました。	
総合評価		A		令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しましたが、引き続き事業の実施が必要です。			
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 05諸費

事務事業番号 10010503

事業名		多子世帯給食費助成事業		担当部署	教育部 学校教育課					
根拠法令										
令和3年度決算額		22,622	千円	項目評価				総合評価		
財源内訳	国道支出金		千円							
	地方債		千円							
	その他	22,466	千円							
	一般財源	156	千円							
事業費（総計）		24,031	千円							
決算額		22,622	千円							
人件費		1,409	千円							
事業の目的								総合評価		
<p>人口減少対策の一環として、多子世帯の負担軽減を図るため、3人目以降の児童生徒の学校給食費を助成します。</p>										
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>市内に居住で、小中学校に在籍する児童生徒が3人以上いる世帯に対し、3人目以降の児童生徒の学校給食費を助成します。</p> <p>小学校 4,500円/月（1年生4月のみ3,380円） 中学校 5,250円/月（3年生3月のみ2,630円）</p>						総合評価		
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	総合評価			
		小中学校全児童生徒数（3.31現在）	人	13,147	13,288	-				
		多子認定児童生徒数（生活保護・就学援助者を除く）	人	432	443	-				
		小中学校全児童生徒数に対する多子認定割合	%	3.28	3.33	-				
項目評価		高一低		評価の理由				総合評価		
		4	3	2	1					
有効性		●				目的のとおり、第3子以降の児童生徒の学校給食費を助成し、目的を達成したためです。				
効率性			●			人口減少対策の一環として実施している事業であり、将来にわたって効果が得られると考えられるためです。				
公平性		●				小中学校に在籍する児童生徒が3人以上いる世帯すべてに、平等に申請する機会を設けているためです。				
将来性		●				事業の目的として、人口減少対策の一環を掲げ、将来のまちづくりを行う上で、期待できる効果が一定程度得られると考えられるためです。				
総合評価		A		項目評価のとおり、事業目的をおおむね達成していると評価しています。認定世帯率を100%にするため、申請されていない世帯に対し、申請するよう適宜促していきます。				総合評価		
特記事項										

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 05諸費

事務事業番号 10010504

事業名		植苗中学校学校林整備事業		担当部署	教育部 学校教育課		
根拠法令							
令和3年度決算額		1,381	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金	881	千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	500	千円				
事業費（総計）		1,451	千円				
決算額		1,381	千円				
人件費		70	千円				
事業の目的		植苗中学校林は、昭和25年に設定され、学校や地域が長年にわたり森林教育や環境教育として関わってきた経過があります。この度伐採の時期に至り、水源涵養の機能を再生させることと併せて、学校林としての造林整備を行い、引き続き、学校林を通して、学校や地域における森林教育や環境教育を行います。					
事業の内容		SDGs17の目標 令和元年度 売払い 令和2年度 地拵 令和3年度 造林・下刈 令和4年度 下刈 令和5年度 下刈					
SDGs17の目標							
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性		●				学校林を通して、学校や地域における森林教育や環境教育を行います。	
効率性		●				水源涵養の機能を再生させることに併せて、学校林としての造林整備ができます。	
公平性			●			市内では植苗中学校だけが学校林を所持しています。	
将来性		●				今後も、学校や地域が長年にわたり森林教育や環境教育として関わっていくことができます。	
総合評価		A		水源涵養の機能を再生させることと併せて、学校林としての造林整備を行うことで、学校林を通して、学校や地域における森林教育や環境教育を行うことができます。			
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 05諸費

事務事業番号 10010505

事業名		校外学習支援事業		担当部署	教育部 学校教育課						
根拠法令											
令和3年度決算額		2,343	千円	項目評価							
財源内訳	国道支出金		千円								
	地方債		千円								
	その他		千円								
	一般財源	2,343	千円								
事業費（総計）		3,047	千円								
決算額		2,343	千円								
人件費		704	千円								
事業の目的		新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴い、修学旅行の延期に際して発生する費用に対して支援することにより、学校及び保護者の負担を軽減します。									
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による緊急事態宣言の発令等により、修学旅行の延期に伴うキャンセル料を負担する。</p>									
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度			
		修学旅行延期によるキャンセル料が発生した学校			校	5	-	-			
項目評価		高→低				評価の理由					
		4	3	2	1						
有効性		●							修学旅行延期によるキャンセル料を保護者が負担せずに、修学旅行を実施できたため「4」としました。		
効率性		●							修学旅行が延期になったものの、実施できたため「4」としました。		
公平性		●							一部の保護者に限定せず、全員分のキャンセル料を保護者負担とせずに、実施できたため「4」としました。		
将来性		●				本事業を活用することにより、児童生徒が修学旅行を行うことができ、様々なことを体験し、興味や知識を深めることができるため、「4」としました。					
総合評価		A				本事業を活用することにより、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で修学旅行の延期を実施した学校についても、時期を変更して修学旅行を行うことができました。					
特記事項											

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 01教育総務費

目 05諸費

事務事業番号 10010506

事業名		学校教育活動継続支援事業		担当部署	教育部 総務企画課			
根拠法令								
令和3年度決算額		14,249	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金	7,124	千円					
	地方債		千円					
	その他	50	千円					
	一般財源	7,075	千円					
事業費（総計）		15,236	千円					
決算額		14,249	千円					
人件費		987	千円					
事業の目的		小中学校における教育活動継続に際して、密閉・密集・密接を回避し、児童生徒、教職員等の感染症対策に必要となる物品の購入等に係る経費を支援します。						
事業の内容		SDGs17の目標 小中学校の感染症対策に係る衛生用品等の購入						
SDGs17の目標								
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度		
		事業費（小学校）	千円	9,024	-	-		
		事業費（中学校）	千円	5,226	-	-		
項目評価		高→低			評価の理由			
		4	3	2	1			
有効性		●				小中学校における新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために必要な衛生用品等を整備することができたため、「4」としました。		
効率性		●				学校規模に応じて各校へ予算を配当することで、必要な衛生用品等の整備を迅速かつ柔軟に対応することができたため、「4」としました。		
公平性		●				補助金等を活用することにより、市内の全小中学校を対象に事業を実施できたため、「4」としました。		
将来性		●				本事業を活用することにより、感染症対策に応じた教育環境を整備することができ、児童生徒の今後の教育活動に寄与するものであるため、「4」としました。		
総合評価		A			本事業を活用することにより、感染症対策に応じた教育環境について、おおむね整備できました。			
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10020101

事業名		小学校校舎等改修		担当部署	教育部 施設課							
根拠法令												
令和3年度決算額		11,720	千円	項目評価				総合評価 A				
財源内訳	国道支出金		千円									
	地方債		千円									
	その他		千円									
	一般財源	11,720	千円									
事業費（総計）		13,833	千円									
決算額		11,720	千円									
人件費		2,113	千円									
事業の目的		学校施設の適切な改修を実施します。										
事業の内容 SDGs17の目標		<p>錦岡小学校 屋内運動場換気窓修繕工事 日新小学校 屋内運動場換気窓修繕工事 美園小学校 屋内運動場換気窓修繕工事</p>										
実施結果 (活動指標)		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度						
項目評価		高→低		評価の理由								
		4	3	2	1							
有効性		●				修繕により、安全性が高まり、教育環境の向上が図られたため、「4」としました。						
効率性			●			費用に見合った効果が得られていることから「3」としました。						
公平性			●			各学校施設の老朽化状況を確認し、優先順位付けをしながら事業を実施していることから、「3」としました。						
将来性			●			適切な修繕の実施により、児童等が安全・安心に学校生活が送れるため、「3」としました。						
総合評価		A		事業の実施により児童等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。今後も各校の老朽状況を把握し、優先度を考慮した上で老朽化対策を実施する必要があります。								
特記事項												

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10020102

事業名		児童用机・椅子整備事業		担当部署	教育部 施設課						
根拠法令											
令和3年度決算額		12,137	千円	項目評価							
財源内訳	国道支出金	12,000	千円								
	地方債		千円								
	その他		千円								
	一般財源	137	千円								
事業費（総計）		14,250	千円								
決算額		12,137	千円								
人件費		2,113	千円	総合評価							
				A							
事業の目的		老朽化した机・椅子を更新します。									
事業の内容		SDGs17の目標 特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用し、普通教室や、少人数指導等の特別活動に使用する机・椅子の一部を更新しました。									
SDGs17の目標											
実施結果（活動指標）		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度			
項目評価		高→低				評価の理由					
		4	3	2	1						
有効性			●						机・椅子の更新は教育環境の向上が図られ、また、児童の衣服の傷みも低下することから、「3」としました。		
効率性			●						交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●						事業計画を策定し、新JIS規格の机・椅子の更新していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、教育環境の向上が図れるため、「3」としました。					
総合評価		A				老朽化した机・椅子の更新により、児童が授業に集中するようになった等の声が聞かれ、教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。今後も計画的に更新を続けていくことが重要と考えます。					
特記事項											

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10020103

事業名		植苗小中学校スクールバス運行管理業務委託事業		担当部署	教育部 総務企画課		
根拠法令							
令和3年度決算額		8,648	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	8,648	千円				
事業費（総計）		9,352	千円				
決算額		8,648	千円				
人件費		704	千円				
総合評価							
A							
事業の目的		植苗小中学校のスクールバスについて、安定的な運行管理の維持を目的に、車両と運転手について民間事業者へ委託します。					
事業の内容		植苗小中学校のスクールバスは、以前は市所有のバス車両（平成15年度取得）を学校公務補が運転し児童生徒の登下校及び課外授業の移送を行っていましたが、現在は車両と運転手について民間事業者へ委託しています。					
SDGs17の目標							
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
		運行日数	日	202	199	195	
項目評価		高一低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性		●				スクールバスの運行を事業者へ委託することで、安定した児童生徒の送迎等を実施できているため、「4」としました。	
効率性		●				スクールバスの運行を事業者へ委託することで、円滑な児童生徒の送迎等を実施できているため、「4」としました。	
公平性			●			通学区域が広範囲である植苗小中学校の児童生徒を対象に送迎等を実施しており、利用できる児童生徒に限られるため、「3」としました。	
将来性		●				円滑な児童生徒の送迎等を実現するために継続して実施する必要があるため、「4」としました。	
総合評価		A		引き続きスクールバスの運行を委託することで、円滑な児童生徒の送迎、校外学習の実施を実現します。			
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10020104

事業名		小学校校舎網戸整備事業【繰越明許】		担当部署	教育部 施設課			
根拠法令								
令和3年度決算額	57,009	千円	項目評価				総合評価 A	
財源内訳	国道支出金	35,273						千円
	地方債							千円
	その他							千円
	一般財源	21,736						千円
事業費（総計）	58,418	千円						
決算額	57,009	千円						
人件費	1,409	千円						
事業の目的	新型コロナウイルス感染対策として換気を促すため、窓に網戸を設置します。							
事業の内容 SDGs17の目標	<p>小中学校校舎網戸設置その1工事 小中学校校舎網戸設置その2工事 小中学校校舎網戸設置その3工事</p>							
実施結果 (活動指標)	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度		
項目評価	高→低				評価の理由			
	4	3	2	1				
	有効性	●						網戸設置により、換気時に虫が入ってくるものが減り、定期的な換気がしやすくなったことから「4」としました。
	効率性		●					交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。
	公平性		●					対象校の現地調査を行い、各校が同程度の水準となるよう網戸設置位置を定めて実施したことから、「3」としました。
将来性		●		換気がしやすくなり、教育環境の向上が図れたため、「3」としました。				
総合評価	A				本事業の実施により、感染対策として有効である定期的な換気がしやすくなり、新型コロナウイルスの感染対策として成果があったことから、高く評価できるものと考えています。			
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 02教育振興費

事務事業番号 10020201

事業名		小学校図書館用図書整備		担当部署	教育部 学校教育課	
根拠法令		学校図書館法				
令和3年度決算額		12,157	千円	項目評価	<p>有効性 将来性 効率性 公平性</p>	総合評価 A
財源内訳	国道支出金	2,788	千円			
	地方債		千円			
	その他	200	千円			
	一般財源	9,169	千円			
事業費（総計）		12,861	千円			
決算額		12,157	千円			
人件費		704	千円			
事業の目的		各小学校の学校図書館の充実を図るため、図書館用図書を購入します。				
事業の内容 SDGs17の目標		<p>各校の状況に応じて予算配分し、5,482冊の図書を購入しました。 (令和3年度は一般財源のほか、寄附金 200,000円、再編関連訓練移転等交付金 2,787,960円を財源としています。)</p>				
実施結果 (活動指標)		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度
		1校あたりの図書購入冊数	冊	238	241	331
		1校あたり決算額	千円	529	495	455
		小学校全体の蔵書達成率	%	96.8	99.0	99.6
項目評価		高→低 4 3 2 1		評価の理由		
有効性		●				交付金等を積極的に活用し蔵書数の増加を行っているため、有効性が高いと考えています。
効率性		●				交付金等を積極的に活用し蔵書数の増加を行っているため、効率性が高いと考えています。
公平性			●			各小学校の蔵書充足率に応じて予算配分を行い、各校蔵書の充実・図書館の利用促進に寄与していますが、全校での蔵書冊数達成を目指します。
将来性		●				市の学校図書館の運営指針による図書の廃棄により、一時的に蔵書数が減少することもあります。各校の状況を把握し計画的な予算配分を行います。
総合評価		A		<p>「生きる力」を育むために学校図書館の機能向上が必要とする「学校図書館図書整備等5か年計画」の趣旨のもと、今後も事業を継続し蔵書の充実により、学校図書館の利用促進を図ることが必要です。 蔵書率を基に学校へ予算配分を行ったことにより、より効率的に蔵書冊数の増加を行うことができました。</p>		
特記事項						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 02教育振興費

事務事業番号 10020202

事業名		特色ある小学校づくり・総合的な学習活動推進事業		担当部署	教育部 学校教育課																																				
根拠法令																																									
令和3年度決算額		4,480	千円	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">項目評価</th> <td colspan="4"> </td> <td rowspan="6"> <table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td style="font-size: 2em; text-align: center;">A</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	項目評価						<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td style="font-size: 2em; text-align: center;">A</td> </tr> </table>	総合評価	A																												
項目評価						<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td style="font-size: 2em; text-align: center;">A</td> </tr> </table>	総合評価	A																																	
総合評価	A																																								
財源内訳	国道支出金		千円																																						
	地方債		千円																																						
	その他		千円																																						
	一般財源	4,480	千円																																						
事業費（総計）		5,184	千円																																						
決算額		4,480	千円																																						
人件費		704	千円																																						
事業の目的		<p>各小学校に「特色ある学校づくり」や「総合的な学習活動」を推進するための助成を行います。 また、地域との交流や体験学習、環境教育、地域文化の継承など地域や各学校の特色を活かした学校づくりや、総合的な学習により、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む力を育てるために、各校への支援が必要です。</p>																																							
事業の内容 SDGs17の目標		<p>【特色ある学校づくり】 23校(76事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウトナイ湖の観察など環境学習 ・外部講師（地域人材）を活用した読み聞かせ活動、書初め、文化伝承 ・老人クラブとの交流事業 ・音楽鑑賞会など文化的活動 ・本の腰巻文学賞・蔵書票コンクール <p>【総合的な学習】 23校(108事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育～栽培活動や調理、豆腐づくり ・自然～日高山脈の動植物の自然観察及び体験活動、錦多峰川の探索 ・国際理解～異なる文化や生活習慣をもった人たちとの交流 ・情報～パソコンを使って情報活用の実践力を育てる、モラル教育 ・地域～苫小牧の街探検、市内の公共施設の見学、アイヌ文化の学習・見学 ・産業～自動車工場見学、製紙工業見学 ・福祉～施設訪問、バリアフリーの類似体験 <p>※ 一部、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p>																																							
実施結果 (活動指標)		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標名</th> <th>単位</th> <th>R3年度</th> <th>R2年度</th> <th>R1年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">特色ある小学校づくり申請事業数</td> <td>件</td> <td>76</td> <td>86</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総合的な学習活動申請事業数</td> <td>件</td> <td>108</td> <td>115</td> <td>177</td> </tr> </tbody> </table>				指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度	特色ある小学校づくり申請事業数		件	76	86	82	総合的な学習活動申請事業数		件	108	115	177																		
指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度																																				
特色ある小学校づくり申請事業数		件	76	86	82																																				
総合的な学習活動申請事業数		件	108	115	177																																				
項目評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">高→低</th> <th rowspan="2">評価の理由</th> </tr> <tr> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有効性</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>特色ある学習及び総合的な学習を各校工夫しながら実施することができたことから、有効性が高いと考えているため、「4」としました。</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>各校、限られた授業時間数等で計画を立て、事業を実施したため、「4」としました。</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>各小学校の学級数及び児童生徒数に応じて予算配分を行い特色ある学校づくり、総合的な学習の促進に寄与しているため、「4」としました。</td> </tr> <tr> <td>将来性</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>本事業を行うことにより、児童が様々なことを体験し、興味や知識を深めることができるため、「4」としました。</td> </tr> </tbody> </table>					高→低				評価の理由	4	3	2	1	有効性	●				特色ある学習及び総合的な学習を各校工夫しながら実施することができたことから、有効性が高いと考えているため、「4」としました。	効率性	●				各校、限られた授業時間数等で計画を立て、事業を実施したため、「4」としました。	公平性	●				各小学校の学級数及び児童生徒数に応じて予算配分を行い特色ある学校づくり、総合的な学習の促進に寄与しているため、「4」としました。	将来性	●				本事業を行うことにより、児童が様々なことを体験し、興味や知識を深めることができるため、「4」としました。		
	高→低				評価の理由																																				
	4	3	2	1																																					
有効性	●				特色ある学習及び総合的な学習を各校工夫しながら実施することができたことから、有効性が高いと考えているため、「4」としました。																																				
効率性	●				各校、限られた授業時間数等で計画を立て、事業を実施したため、「4」としました。																																				
公平性	●				各小学校の学級数及び児童生徒数に応じて予算配分を行い特色ある学校づくり、総合的な学習の促進に寄与しているため、「4」としました。																																				
将来性	●				本事業を行うことにより、児童が様々なことを体験し、興味や知識を深めることができるため、「4」としました。																																				
総合評価		A				<p>限られた授業時数のなかで、行政や関係団体等から多くの教育活動を求められており、各校において非常に効果の高いものと考えています。 なお、今後も事業が適正に行われるよう有効性及地域ニーズを踏まえた計画内容の精査や事業実施状況の把握などに努めます。</p>																																			
特記事項																																									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10020301

事業名		苫小牧東小学校及び苫小牧東中学校改築事業【継続事業】		担当部署	教育部 施設課			
根拠法令								
令和3年度決算額		721,705	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金	134,414	千円					
	地方債	448,500	千円					
	その他		千円					
	一般財源	138,791	千円					
事業費（総計）		723,818	千円					
決算額		721,705	千円					
人件費		2,113	千円	総合評価				
					A			
事業の目的		苫小牧東小学校及び苫小牧東中学校の改築を実施します。						
事業の内容 SDGs17の目標		<ol style="list-style-type: none"> 苫小牧東小学校解体工事【R2繰越明許】 旧校舎・屋内運動場の解体工事を実施しました。 苫小牧東中学校解体工事【R2-R3継続事業】 旧校舎・屋内運動場の解体工事を実施しました。 苫小牧東小学校及び苫小牧東中学校外構整備工事【R2繰越明許】 グラウンドやフェンス等、外構整備工事を実施しました。 						
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		学校施設の耐震化率			%	100.0	99.4	96.4
項目評価		高一低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性			●			本事業の実施により児童生徒等の安全性の確保及び教育環境の向上が図られることから、「3」としました。		
効率性			●			交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●			苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。		
総合評価		A				事業の実施により児童生徒等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。		
特記事項		決算額については、苫小牧東小・中学校改築事業【繰越明許】の事業費を含んでいます。						


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10020302

事業名		清水小学校屋内運動場改築事業		担当部署	教育部 施設課			
根拠法令								
令和3年度決算額		44,892	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金	13,509	千円					
	地方債	25,300	千円					
	その他		千円					
	一般財源	6,083	千円					
事業費（総計）		46,301	千円					
決算額		44,892	千円					
人件費		1,409	千円					
事業の目的		清水小学校屋内運動場の改築を実施します。						
事業の内容 SDGs17の目標		 <p>清水小学校屋内運動場解体工事【R2線越明許】 旧屋内運動場の解体工事を実施しました。</p>						
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		学校施設の耐震化率			%	100.0	99.4	96.4
項目評価		高→低 4 3 2 1				評価の理由		
有効性			●			本事業の実施により児童生徒等の安全性の確保及び教育環境の向上が図られることから、「3」としました。		
効率性			●			交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●			苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。		
総合評価		A				事業の実施により児童等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。		
特記事項		決算額については、清水小学校屋内運動場改築事業【線越明許】の事業費を含んでいます。						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10020303

事業名		樽前小学校改築事業		担当部署	教育部 施設課		
根拠法令							
令和3年度決算額		485	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	485	千円				
事業費（総計）		5,415	千円				
決算額		485	千円				
人件費		4,930	千円	総合評価			
A							
事業の目的		樽前小学校の改築を実施します。					
事業の内容		SDGs17の目標 資料作成業務 パースや用地資料図の作成を実施しました。					
SDGs17の目標							
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性			●			本事業の実施により児童生徒等の安全性の確保及び教育環境の向上が図られることから、「3」としました。	
効率性			●			交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。	
公平性			●			苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。	
将来性			●			計画的な事業の実施により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。	
総合評価		A		事業の実施により、次年度以降予定されている改築工事等が円滑に進むようになったことから、高く評価できるものと考えています。今後は学校敷地内で工事が行われることから、教育環境や安全に配慮した事業推進が必要と考えます。			
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 02小学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10020304

事業名		泉野小学校外部改修事業		担当部署	教育部 施設課			
根拠法令								
令和3年度決算額		71,081	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金	22,048	千円					
	地方債	47,500	千円					
	その他	30	千円					
	一般財源	1,503	千円					
事業費（総計）		72,490	千円					
決算額		71,081	千円					
人件費		1,409	千円					
事業の目的		泉野小学校の校舎及び屋内運動場の外部改修を実施します。						
事業の内容 SDGs17の目標		<p>泉野小学校屋内運動場外部改修工事【R2繰越明許】 屋内運動場の屋根及び外壁の改修を実施しました。</p>						
実施結果 (活動指標)		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度		
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性		●				本事業の実施により児童生徒等の安全性の確保及び教育環境の向上が図られることから、「4」としました。		
効率性			●			交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●			苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。		
総合評価		A				事業の実施により児童等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。学校敷地内で工事が行われることから、教育環境や安全に配慮した事業推進が必要と考えます。		
特記事項		決算額については、泉野小学校外部改修事業【繰越明許】の事業費を含んでいます。						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10030101

事業名		中学校校舎等改修		担当部署	教育部 施設課		
根拠法令							
令和3年度決算額		6,901	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金	1,888	千円				
	地方債	3,700	千円				
	その他		千円				
	一般財源	1,313	千円				
事業費（総計）		9,014	千円				
決算額		6,901	千円				
人件費		2,113	千円	総合評価			
				A			
事業の目的		学校施設の適切な改修を実施します。					
事業の内容		SDGs17の目標 明倫中学校屋内運動場換気窓修繕工事 明倫中学校バックスネット改修工事					
SDGs17の目標							
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度	
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性		●				修繕により、安全性が高まり、教育環境の向上が図られたため、「4」としました。	
効率性			●			費用に見合った効果が得られていることから「3」としました。	
公平性			●			各学校施設の老朽化状況を確認し、優先順位付けをしながら事業を実施していることから、「3」としました。	
将来性			●			適切な修繕の実施により、生徒等が安全・安心に学校生活が送れるため、「3」としました。	
総合評価		A		事業の実施により生徒等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。今後も各校の老朽状況を把握し、優先度を考慮した上で老朽化対策を実施する必要があります。			
特記事項		決算額については、中学校校舎等改修【繰越明許】の事業費を含んでいます。					

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10030102

事業名		防音機能復旧事業		担当部署	教育部 施設課				
根拠法令									
令和3年度決算額		5,238	千円	項目評価					
財源内訳	国道支出金	3,037	千円						
	地方債	1,400	千円						
	その他		千円						
	一般財源	801	千円						
事業費（総計）		6,647	千円						
決算額		5,238	千円						
人件費		1,409	千円						
総合評価									
A									
事業の目的		学校施設の適切な改修を実施します。							
事業の内容		SDGs17の目標 勇払中学校防音機能復旧実施設計業務							
SDGs17の目標									
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度			
項目評価		高→低			評価の理由				
		4	3	2				1	
有効性			●						次年度に予定されている工事に対する実施設計が予定どおり完了したことから、「3」としました。
効率性			●						交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。
公平性			●						各学校施設の老朽化状況を確認し、優先順位付けをしながら事業を実施していることから、「3」としました。
将来性			●			適切な修繕の実施により、生徒等が安全・安心に学校生活が送れるため、「3」としました。			
総合評価		A			各学校施設の老朽状況は多岐にわたることから、これまで同様、優先度の把握に努め計画的な改修を実施します。				
特記事項									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10030103

事業名		生徒用机・椅子整備事業		担当部署	教育部 施設課			
根拠法令								
令和3年度決算額		4,101	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金	4,000	千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	101	千円					
事業費（総計）		6,214	千円					
決算額		4,101	千円					
人件費		2,113	千円					
事業の目的		老朽化した机・椅子を更新します。						
事業の内容 SDGs17の目標		<p>特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用し、少人数指導等の特別活動に使用する机・椅子の一部を更新しました。</p>						
実施結果 (活動指標)		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度		
項目評価		高→低		評価の理由				
		4	3	2	1			
有効性			●			机・椅子の更新は教育環境の向上が図られ、また、生徒の衣服の傷みも低下することから、「3」としました。		
効率性			●			交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●			事業計画を策定し、新JIS規格の机・椅子の更新していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、教育環境の向上が図れるため、「3」としました。		
総合評価		A		老朽化した机・椅子の更新により、生徒が授業に集中するようになった等の声が聞かれ、教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。今後も計画的に更新を続けていくことが重要と考えます。				
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10030104

事業名		部活動指導員配置事業		担当部署	教育部 学校教育課										
根拠法令		学校教育法施行規則													
令和3年度決算額		941	千円	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">項目評価</th> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">総合評価</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; font-size: 2em;">B</td> </tr> </table>	項目評価				総合評価		B				
項目評価															
総合評価															
B															
財源内訳	国道支出金	570	千円												
	地方債		千円												
	その他		千円												
	一般財源	371	千円												
事業費（総計）		2,350	千円												
決算額		941	千円												
人件費		1,409	千円												
事業の目的		中学校における部活動において、専門的な知識や技能を有する部活動指導員（以下「指導員」という。）を配置することで、指導体制の充実を図り、部活動を担当する教職員の時間外勤務時間の軽減や精神的な負担軽減を目的として実施します。													
事業の内容		<p>アイスホッケー部で勇弘中学校、和光中学校、緑陵中学校の3校に1名ずつ計3名の指導員を配置したほか、合同による陸上部で沼ノ端中学校、青翔中学校、ウトナイ中学校の3校に1名の指導員を配置しました。</p> 													
SDGs17の目標															
															
実施結果（活動指標）		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度								
		指導員一人当たりの活動時数（指導・引率等）		時間	129	—	—								
項目評価		高一低		評価の理由											
		4	3	2	1										
有効性			●			指導員配置校における教職員の1か月当たり45時間超の時間外勤務時間について、令和2年度と令和3年度を比較すると約2割弱減少しており、一定の効果があると考えられることから、「3」としました。									
効率性			●			事業費の大半は人件費であり、必要最低限の経費で事業展開していることから、「3」としました。									
公平性				●		学校が指導員を必要とする部活動にマッチングした人材を確保した時点でその学校へ優先して配置していることから、「2」としました。									
将来性				●		令和5年度から段階的に運動部活動を地域へ移行するよう、国から求められていることから、「2」としました。									
総合評価		B		指導員が必要な部活動について、人材確保に向けて各種制度を活用し希望校へ配置できるよう取り組むとともに、配置校をより一層拡充していきたいと考えています。また、令和5年度からの運動部活動の地域移行に向けて、様々な課題などを整理し検討を進める必要があります。											
特記事項															

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 01学校管理費

事務事業番号 10030105

事業名		中学校校舎網戸整備事業【繰越明許】		担当部署	教育部 施設課				
根拠法令									
令和3年度決算額	26,008	千円	項目評価				<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; text-align: center;">A</td> </tr> </table>	総合評価	A
総合評価									
A									
財源内訳	国道支出金	17,126	千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源	8,882	千円						
事業費（総計）	27,417	千円							
決算額	26,008	千円							
人件費	1,409	千円							
事業の目的	新型コロナウイルス感染対策として換気を促すため、窓に網戸を設置します。								
事業の内容	SDGs17の目標 小中学校校舎網戸設置その1工事 小中学校校舎網戸設置その2工事 小中学校校舎網戸設置その3工事								
実施結果 (活動指標)	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度			
項目評価	高→低				評価の理由				
	4	3	2	1					
	有効性	●						網戸設置により、換気時に虫が入ってくるものが減り、定期的な換気がしやすくなったことから「4」としました。	
	効率性		●					交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。	
	公平性		●					対象校の現地調査を行い、各校が同程度の水準となるよう網戸設置位置を定めて実施したことから、「3」としました。	
将来性		●		換気がしやすくなり、教育環境の向上が図れたため、「3」としました。					
総合評価	A				本事業の実施により、感染対策として有効である定期的な換気がしやすくなり、新型コロナウイルスの感染対策として成果があったことから、高く評価できるものと考えています。				
特記事項									

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費 項 03中学校費 目 02教育振興費 事務事業番号 10030201

事業名		中学校図書館用図書整備		担当部署	教育部 学校教育課	
根拠法令		学校図書館法				
令和3年度決算額		11,493	千円	項目評価		総合評価 A
財源内訳	国道支出金	8,525	千円			
	地方債		千円			
	その他		千円			
	一般財源	2,968	千円			
事業費（総計）		12,197	千円			
決算額		11,493	千円			
人件費		704	千円			
事業の目的		各中学校の学校図書館の充実を図るため、図書館用図書を購入します。				
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>各校の状況に応じて予算配分し、5,995冊の図書を購入しました。</p> <p>（令和3年度は一般財源のほか、再編関連訓練移転等交付金8,525,240円を財源としています。）</p>				
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度
		1校あたりの図書購入冊数	冊	231	230	291
		1校あたり決算額	千円	718	699	560
		中学校全体の蔵書達成率	%	95.0	104.0	121.8
項目評価		高→低		評価の理由		
		4	3	2	1	
有効性		●				交付金等を積極的に活用し蔵書数の増加を行っているため、有効性が高いと考えています。
効率性		●				交付金等を積極的に活用し蔵書数の増加を行っているため、効率性が高いと考えています。
公平性			●			交付金が財源の多くを占めており、各校の図書購入数には多少偏りがあるのが現状です。
将来性		●				市の学校図書館の運営指針による図書の廃棄により、一時的に蔵書数が減少することもあります。各校の状況を把握し計画的な予算配分を行います。
総合評価		A		<p>「生きる力」を育むために学校図書館の機能向上が必要とする「学校図書館図書整備等5か年計画」の趣旨のもと、今後も事業を継続し蔵書の充実により、学校図書館の利用促進を図ることが必要です。</p> <p>蔵書率を基に学校へ予算配分を行ったことにより、より効率的に蔵書冊数の増加を行うことができました。</p>		
特記事項						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 02教育振興費

事務事業番号 10030202

事業名		特色ある中学校づくり・総合的な学習活動推進事業		担当部署	教育部 学校教育課		
根拠法令							
令和3年度決算額		3,057	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	3,057	千円				
事業費（総計）		3,761	千円	総合評価	A		
決算額		3,057	千円				
人件費		704	千円				
事業の目的		各中学校に「特色ある学校づくり」や「総合的な学習活動」を推進するための支援を行います。また、地域との交流や体験学習、環境教育、地域文化の継承など地域や各学校の特色を活かした学校づくりや、総合的な学習により、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む力を育てるために、各校への支援が必要です。					
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>【特色ある学校づくり】 16校(42事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会との交流事業 ・外部講師を招聘しての芸術活動・講演活動 ・卒業生に学ぶ、人生の先輩に学ぶ ・国際理解学習 ・千人隊踊り伝承活動 ・姉妹校交流費 ・グリーン大作戦（「生徒会行事」） ・アイヌ文化の学習、見学 <p>【総合的な学習】 16校(52事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育～職業調べ学習、職業体験、進路学習 <p>※ 一部、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p>					
実施結果（活動指標）		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度
		特色ある中学校づくり申請事業数		件	42	44	50
		総合的な学習活動申請事業数		件	52	49	69
項目評価		高→低		評価の理由			
		4	3	2	1		
有効性		●				特色ある学習及び総合的な学習を各校工夫しながら実施することができたことから、有効性が高いと考えているため、「4」としました。	
効率性		●				各校、限られた授業時間数等で計画を立て、事業を実施したため、「4」としました。	
公平性		●				各小学校の学級数及び児童生徒数に応じて予算配分を行い特色ある学校づくり、総合的な学習の促進に寄与しているため、「4」としました。	
将来性		●				本事業を行うことにより、生徒が様々なことを体験し、興味や知識を深めることができるため、「4」としました。	
総合評価		A		限られた授業時数のなかで、行政や関係団体等から多くの教育活動を求められており、各校において非常に効果の高いものと考えています。なお、今後も事業が適正に行われるよう有効性及地域ニーズを踏まえた計画内容の精査や事業実施状況の把握などに努めます。			
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10030301

事業名		青翔中学校校舎増築事業		担当部署	教育部 施設課			
根拠法令								
令和3年度決算額		379,308	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金	198,548	千円					
	地方債	149,500	千円					
	その他		千円					
	一般財源	31,260	千円					
事業費（総計）		380,717	千円					
決算額		379,308	千円					
人件費		1,409	千円					
事業の目的		青翔中学校校舎の増築を実施します。						
事業の内容 SDGs17の目標		<p>青翔中学校校舎増築工事【R2繰越明許】 校舎の増築工事を実施しました。</p>						
4 質の高い教育をみんなに								
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度		
項目評価		高→低			評価の理由			
		4	3	2	1			
有効性		●				本事業の実施により生徒等の教育環境の向上が図られることから、「4」としました。		
効率性			●			交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●			苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。		
総合評価		A			事業の実施により、生徒数に対して必要となる特別教室等が整備され、教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。学校敷地内で工事が行われることから、教育環境や安全に配慮した事業推進が必要と考えます。			
特記事項		決算額については、青翔中学校校舎増築事業【繰越明許】の事業費を含んでいます。						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10030302

事業名		啓北中学校校舎・屋内体育館改築事業		担当部署	教育部 施設課						
根拠法令											
令和3年度決算額		124,175	千円	項目評価				総合評価 A			
財源内訳	国道支出金		千円								
	地方債	90,000	千円								
	その他	16,865	千円								
	一般財源	17,310	千円								
事業費（総計）		125,584	千円								
決算額		124,175	千円								
人件費		1,409	千円								
事業の目的		啓北中学校の改築を実施します。									
事業の内容 SDGs17の目標		<p>啓北中学校外構整備工事 駐車場やフェンス等、外構整備工事を実施しました。</p>									
実施結果 (活動指標)		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度				
		学校施設の耐震化率		%	100.0	99.4	96.4				
項目評価		高→低				評価の理由					
		4	3	2	1						
有効性		●							本事業の実施により生徒等の安全性の確保及び教育環境の向上が図られることから、「4」としました。		
効率性			●						交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●						苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。					
総合評価		A				事業の実施により生徒等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。					
特記事項											

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10030303

事業名		光洋中学校屋内運動場改築事業		担当部署	教育部 施設課					
根拠法令										
令和3年度決算額		594,359	千円	項目評価						
財源内訳	国道支出金	199,407	千円							
	地方債	373,800	千円							
	その他	640	千円							
	一般財源	20,512	千円							
事業費（総計）		597,176	千円							
決算額		594,359	千円							
人件費		2,817	千円	総合評価	A					
事業の目的										
光洋中学校屋内運動場の改築を実施します。										
事業の内容										
SDGs17の目標										
光洋中学校屋内運動場改築工事【R2線越明許】 屋内運動場の改築を実施しました。										
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度		
		学校施設の耐震化率			%	100.0	99.4	96.4		
項目評価		高→低				評価の理由				
		4	3	2	1					
		有効性	●							本事業の実施により生徒等の安全性の確保及び教育環境の向上が図られることから、「4」としました。
		効率性		●						交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。
		公平性		●						苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。
将来性		●			計画的な事業の実施により、生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。					
総合評価		A				事業の実施により生徒等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。学校敷地内で工事が行われることから、教育環境や安全に配慮した事業推進が必要と考えます。				
特記事項		決算額については、光洋中学校屋内運動場改築事業【線越明許】の事業費を含んでいます。								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 03中学校費

目 03学校建設費

事務事業番号 10030304

事業名		沼ノ端中学校大規模改修事業【継続事業】		担当部署	教育部 施設課						
根拠法令											
令和3年度決算額		254,921	千円	項目評価				総合評価 A			
財源内訳	国道支出金	90,860	千円								
	地方債	160,100	千円								
	その他	1,145	千円								
	一般財源	2,816	千円								
事業費（総計）		257,738	千円								
決算額		254,921	千円								
人件費		2,817	千円								
事業の目的		沼ノ端中学校の大規模改修工事を実施します。									
事業の内容 SDGs17の目標		<p>沼ノ端中学校大規模改修工事【R3-R4継続費】 校舎・屋内運動場の大規模改修工事を実施しました。</p>									
実施結果 (活動指標)				単位	R3年度	R2年度	R1年度				
項目評価		高→低				評価の理由					
		4	3	2	1						
有効性		●							本事業の実施により生徒等の安全性の確保及び教育環境の向上が図られることから、「4」としました。		
効率性			●						交付金を活用しながら事業を実施していることから、「3」としました。		
公平性			●						苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき事業を実施していることから、「3」としました。		
将来性			●			計画的な事業の実施により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れ、コストの縮減と平準化を図れるため、「3」としました。					
総合評価		A				事業の実施により生徒等の安全確保及び教育環境の向上が図られたことから、高く評価できるものと考えています。学校敷地内で工事が行われることから、教育環境や安全に配慮した事業推進が必要と考えます。					
特記事項											

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 01社会教育総務費

事務事業番号 10040101

事業名		文化芸術振興計画事業		担当部署	教育部 生涯学習課					
根拠法令		苫小牧市民文化芸術振興条例								
令和3年度決算額		2,743	千円	項目評価						
財源内訳	国道支出金		千円							
	地方債		千円							
	その他	2,593	千円							
	一般財源	150	千円							
事業費（総計）		26,689	千円							
決算額		2,743	千円							
人件費		23,946	千円							
事業の目的		「苫小牧市民文化芸術振興条例」及び「苫小牧市民文化芸術振興推進計画」に基づき、文化の薫り高く潤いのあるまちづくりを目指し、文化芸術振興に係る事業を実施し、すべての市民が平等に優れた文化芸術に触れる機会の確保、文化芸術の創造、発展を図ります。								
事業の内容 SDGs17の目標 		<ol style="list-style-type: none"> PMF演奏会補助事業 新型コロナウイルスの影響により中止 苫小牧アートフェスティバル補助事業 新型コロナウイルスの影響により中止 苫小牧市民文化芸術振興助成事業 市内で実施された音楽の演奏会、作品展示、絵画展などの事業に助成しました。 青少年ミュージックキャンプ事業 新型コロナウイルスの影響により中止 高等学校文化活動遠征費補助事業 文化活動で北海道代表として全国大会に出場した市内高校の遠征費を助成しました。 苫小牧音楽祭補助事業 新型コロナウイルスの影響により中止 裏千家全道大会補助事業 新型コロナウイルスの影響により中止 								
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度		
		文化芸術振興助成件数			件	10	5	27		
		市主催文化芸術鑑賞事業実施数			件	0	1	5		
項目評価		高→低 4 3 2 1				評価の理由				
有効性			●			本事業は「文化の薫り高く潤いのあるまちづくり」の推進に寄与しており、市民の文化芸術活動への補助を実施した一方、新型コロナウイルス感染症拡大防止により開催中止となった事業があったことから、「3」としました。				
効率性				●		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催に向けた準備を進めていた事業が中止となったことから、「2」としました。				
公平性			●			結果的には中止となった事業もありましたが、多くの市民が文化芸術に触れるよう広く周知するなど開催に向けた準備を積極的に行っていたことから、「3」としました。				
将来性			●			今後も事業を着実に継続して実施していくことで、市民の文化芸術に対する意識の高揚や文化芸術振興の効果が高まるとことから、「3」としました。				
総合評価		B				令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためやむを得ず開催中止となった事業がありましたが、実施した事業については目的どおりに概ね実施できたものと考えます。市内の文化芸術活動の活性化のために、市民ニーズに対応した文化芸術の提供、文化芸術活動への支援等を引き続き行います。				
特記事項										

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 01社会教育総務費

事務事業番号 10040102

事業名		苦小牧市史編集事業		担当部署	教育部 市史編集事務局			
根拠法令								
令和3年度決算額		632	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	632	千円					
事業費（総計）		20,063	千円	総合評価	B			
決算額		632	千円					
人件費		19,431	千円					
事業の目的		<p>これまでの苦小牧の成り立ちや市政・町政と住民の生活、まちの発展の歴史的事実を記録し、今後のまちづくりや歴史教育に役立てるため、「新市史」として纏めて後世に遺すことを目的とします。</p>						
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>平成30年度～令和5年度の6ヵ年計画で新市史の編集を行うため、平成30年4月に市史編さんの取り組みを開始し、令和5年度を目途に「新苦小牧市史」を発刊することとなりました。</p> <p>【「新苦小牧市史」の概要】 先史時代から現代まで捕捉し、本市の歴史について分かり易く子供から大人まで対応できる概略を主とした内容で、1冊（1,200頁程度）に纏めるとともに、これまでの歴史の見解の修正を含め作成する計画です。</p> <p>※ 令和3年度は、コロナ禍の影響により執筆依頼や資料収集が大幅に遅延したため、令和5年度の刊行が極めて難しい状況となりました。そのため、刊行時期のスケジュールの再構築と執筆候補者の選考方法の協議と事務局内部でできる資料収集等を行いました。</p>						
実施結果（活動指標）		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		苦小牧市史編さん審議会			回	0	1	3
		資料収集聞き取り			回	8	24	10
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性		●				苦小牧市の成り立ちや市政・町政と住民の生活、まちの発展の歴史的事実を記録し、今後のまちづくりや歴史教育に資することから「4」としました。		
効率性				●		苦小牧市史編さん審議会において、新しい市史のあり方について議論され、より良い市史となることが期待されているが、コロナ禍により計画が大幅に遅延していることから「2」としました。		
公平性		●				「新苦小牧市史」は、先住民族であるアイヌ民族や、これまで市史の中では、あまり触れられてこなかった女性史の視点を積極的に盛り込むことから「4」としました。		
将来性		●				「新苦小牧市史」は、様々な出来事の関係者への聞き取り調査や年表の整理を行い、新たな事象の発見等にも努めていることから、「新苦小牧市史」として後世に遺す意味から「4」としました。		
総合評価		B				平成13年度を最後に市史に関する事業の継続を行ってこなかったため手探りの状態で業務を行っています。新たに発見された事象や時代の流れとともに変化してきたことを、今後のまちづくりにつなげるためにも歴史の編さんは重要であり、継続して業務を遂行する必要がありますが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け大幅に遅延していることから、スケジュールの再構築を行うため協議中です。		
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 01社会教育総務費

事務事業番号 10040103

事業名		文化財保護保存事業		担当部署	教育部 生涯学習課		
根拠法令		苫小牧市文化財保護条例					
令和3年度決算額		594	千円	項目評価			
財源内訳	国道支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他		千円				
	一般財源	594	千円				
事業費（総計）		3,411	千円				
決算額		594	千円				
人件費		2,817	千円				
事業の目的		文化の発展を理解する上で欠かせない歴史的な財産の保存・活用を図り、次の世代につなげて行きます。					
事業の内容 SDGs17の目標 		<p>1 文化財発見ツアー 目的：市内外文化財を市民に紹介し、文化財への興味や理解を深めることを目的に平成21年度から実施しています。 開催日時：令和3年11月6日（土）9時00分～13時00分 訪問箇所：苫小牧市美術博物館、静川遺跡、勇払恵比寿神社、勇武津不動、勇弘会所の跡、開拓使三角測量勇払基点、蝦夷地開拓移住隊士の墓 参加者：27人</p> <p>2 指定文化財等の維持・管理 内容：静川遺跡ほか、4つの文化財等敷地の草刈作業。蝦夷地開拓移住隊士の墓、静川遺跡の看板補修などを実施しました。</p> <p>3 静川遺跡の三次元データの作成 目的：文化財に興味を持っていただくことを目的に、国指定の貴重な史跡である静川遺跡の発掘当時を模したものと縄文時代当時を想像したものの2つの三次元データを作成しホームページで公開しました。</p>					
実施結果 (活動指標)				単位	R3年度	R2年度	R1年度
		文化財発見ツアー参加者数		人	27	35	33
項目評価		高→低				評価の理由	
		4	3	2	1		
有効性			●			本事業の各取組については、それぞれが事業目的に寄与しており、継続していくことで効果が得られるものであることから「3」としました。	
効率性				●		本事業の各取組は必要最低限の経費で展開しているが、文化財の持つ魅力を市民に伝えきれていない状況であることから「2」としました。	
公平性			●			文化財発見ツアーについては、申し込みを先着順としているが、事前に十分な広報活動を行っており、また毎年、訪問場所を変更して実施していることから「3」としました。	
将来性		●				本事業については、歴史的財産である文化財の保存・活用を通して、郷土愛や地域課題解決の機運を醸成していくために継続して実施していく必要があることから「4」としました。	
総合評価		B				新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、訪問先の変更など事業実施に若干の影響があったが、新たに静川遺跡の三次元データ作成に着手するなど事業目的は概ね達成できたと考えます。更なる充実を目指し事業を継続するとともに、新たな市指定文化財の指定に向けた業務に取組みます。	
特記事項							

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 01社会教育総務費

事務事業番号 10040104

事業名		生涯学習推進計画事業		担当部署	教育部 生涯学習課										
根拠法令															
令和3年度決算額		3,147	千円	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">項目評価</th> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td rowspan="4"> </td> </tr> <tr> <td>将来性</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> </tr> </table>	項目評価		有効性		将来性	公平性	効率性	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; text-align: center;">B</td> </tr> </table>		総合評価	B
項目評価															
有効性															
将来性															
公平性															
効率性															
総合評価															
B															
財源内訳	国道支出金		千円												
	地方債		千円												
	その他	408	千円												
	一般財源	2,739	千円												
事業費（総計）		8,442	千円												
決算額		3,147	千円												
人件費		5,295	千円												
事業の目的		苦小牧市生涯学習推進基本計画に基づき、生涯学習を推進する事業を実施する													
事業の内容 SDGs17の目標		<ol style="list-style-type: none"> 障がい者学習支援事業 内容：視覚障がい・肢体不自由の2教室を、パソコンボランティア友の会とのパートナーシップ協定を締結し実施しました。また、ボランティア活動を知ってもらうための高校生以上の方を対象に体験講習会を開催しました。 ナナカマド教室事業 内容：様々な理由により学齢期に就学することができなかつた方などを対象に、「学びなおしの機会」として学習の場を提供しました。 赤ちゃん、絵本のとびら事業 内容：苦小牧に住所を有する0歳児及びその保護者を対象に、絵本2冊と絵本ガイドが入った「赤ちゃん、絵本のとびらパック」をプレゼントしました。 アウトリーチ推進事業 内容：市内の小中学校や地域コミュニティ団体などに、市内在住者でプロ・アマを問わず活躍している方々を派遣し、あらゆるジャンルに直接触れてもらう体験プログラムを実施しました。 													
実施結果 (活動指標)	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度									
	【障がい者学習支援事業】受講者数（延べ）		人	113	115	128									
	【ナナカマド教室】受講者数		人	11	11	11									
	【絵本のとびら】対象者への最終配付率		%	-	97.4	96.9									
項目評価	高一低			評価の理由											
	4	3	2				1								
	有効性	●						本事業の各取組はそれぞれの目的に寄与しており、継続することでより効果が得られることもあることから、「3」としました。							
	効率性	●						本事業の各取組は安価で絵本を購入したり、事業を支援する団体とパートナーシップ協定を締結するなど、それぞれ必要最低限の経費で展開していることから、「3」としました。							
	公平性	●						本事業の各取組について、対象者や関係施設等へのPRに努め、平等に機会を確保しているため、「4」としました。							
将来性	●			生涯学習の推進のため、各取組について継続して実施していく必要があることから「4」としました。											
総合評価	B			新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業規模を縮小しながら行った取り組みもありましたが、継続して行うことにより生涯学習の推進に寄与していると考えます。引き続き新規参加者の獲得や更なる内容の充実等に努めてまいります。											
特記事項															

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 01社会教育総務費

事務事業番号 10040105

事業名		樽前アートスクール事業		担当部署	教育部 生涯学習課			
根拠法令								
令和3年度決算額		788	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	788	千円					
事業費（総計）		5,014	千円					
決算額		788	千円					
人件費		4,226	千円					
事業の目的		市内小学生及び保護者を対象に、樽前地区において一流の芸術家の指導による創作活動や地域住民や他校間・異学年との交流を通じて、人の豊かな感性や創造性を磨くことを目的としています。併せて、「苫小牧市樽前地区地域振興計画」の「文化を育て支える地域づくり」の目標達成に寄与します。						
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>小学3・4年生とその保護者を対象に参加を募り、2日間で34組79名が参加されました。樽前地区を拠点に活躍するNPO法人樽前artyプラス理事の藤沢レオ氏を講師に迎え、樽前小学校を会場に、地域のロマンス農園（アスパラ、ミツバチ）・Cozy Farm（ベビーリーフ）・アスラン（サラブレッド）の3軒を探検、ワークショップ「探検隊募集！キャンバスバッグに樽前をえがこう！」を開催しました。探検で観察しながら写真撮影やメモなどを参考に、講師の指導によりステンシル、コラージュなどの技法を駆使してバッグに描き、家族などともデザインを話し合うなど、コミュニケーションに重点を置いた内容としました。当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や食中毒、熱中症の対策を講じ開催しております。</p> <p>実施日：令和3年8月6日（金） ・ 8月7日（土） 参加者：8月6日（17組39名） ・ 7日（17組40名）</p>						
実施結果（活動指標）		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		参加者数			名	79	—	53
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性			●			人の感性や想像力の育成は、自ら考え答えを出すことで責任感を持つことにつながり、社会に対応できる応用性を育むことができ、また、本市における文化・芸術の“人づくり”の拠点としても期待できることから「3」としました。		
効率性				●		本事業の取組みは必要最低限の経費で実施しているが、本事業の魅力を対象者に伝えきれていない部分もあると感じることから「2」としました。		
公平性		●				参加申込みを先着順としたため、事前の広報を十分行った結果、当初の定員を超える申込みとなったが、講師と協議し希望者すべてを参加可能としたことから「4」としました。		
将来性			●			本事業は「拠点づくり」としてスタートした計画ですが、用途変更や費用面などからフレームを再構築した経過があるため、施策の名称変更が必要と考えますが、ソフト事業として地域の魅力を伝えることも有効であると考えことから「3」としました。		
総合評価		B				芸術家 藤沢レオ氏と樽前地区の農家さんなどにも協力いただきながら、参加者に樽前地区の魅力と文化芸術への関心、感性や創造性を磨くワークショップを開催、アンケート結果からも本事業の趣旨・目的が達成されたものと考えます。次期計画の改定内容により事業フレーム等、さまざま検討を進めます。		
特記事項		隔年で実施						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 01社会教育総務費

事務事業番号 10040106

事業名		市民文化芸術振興基金積立金		担当部署	教育部 生涯学習課						
根拠法令		苫小牧市民文化芸術振興基金条例									
令和3年度決算額	34	千円	項目評価				<table border="1"> <tr> <th colspan="2">総合評価</th> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; font-size: 2em;">A</td> </tr> </table>	総合評価		A	
総合評価											
A											
財源内訳	国道支出金		千円								
	地方債		千円								
	その他	34	千円								
	一般財源		千円								
事業費（総計）	104	千円									
決算額	34	千円									
人件費	70	千円									
事業の目的	苫小牧市民文化芸術振興基金への指定寄附の積み立て										
事業の内容	<p>SDGs17の目標</p> <p>令和2年度末基金残高 94,182,497円</p> <p>令和3年度基金積立金 34,012円</p> <p>令和3年度基金取崩し額 4,607,295円</p> <p>令和3年度末基金残高 89,609,214円</p> <p>※積立金内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術助成事業会場での募金（8件） 29,012円 ・文化芸術振興基金への寄附（1件） 5,000円 										
実施結果 (活動指標)	指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度					
	基金の年度末残高		千円	89,609	94,183	98,941					
項目評価	高→低				評価の理由						
	4	3	2	1							
	有効性	●							市民が行う文化芸術活動等への補助などに充当するなど有効に活用されていることから、「4」としました。		
	効率性		●						基金を活用することで、将来にわたり文化芸術振興に効果が得られると考えるため、「3」としました。		
	公平性		●						本事業は、文化芸術イベントや市民の文化芸術活動の補助などに充当する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント自体が開催中止や縮小開催となり、一部の事業への充当に限定されたことから「3」としました。		
将来性	●				文化芸術振興計画に基づいた様々な取組みを着実に進めるには、本事業を継続する必要があることから、「4」としました。						
総合評価	A				今後も基金積立を継続し、本市の文化芸術振興に資するよう文化芸術振興計画に係る各種事業に充当します。						
特記事項											

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費 項 04社会教育費 目 02社会教育施設費 事務事業番号 10040201

事業名		中央図書館コンピュータシステム事業		担当部署	教育部 生涯学習課			
根拠法令								
令和3年度決算額		9,416	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	9,416	千円					
事業費（総計）		9,768	千円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 総合評価 A </div>				
決算額		9,416	千円					
人件費		352	千円					
事業の目的		中央図書館及び図書コーナー7館（のぞみコミセン、豊川コミセン、住吉コミセン、沼ノ端コミセン、勇払公民館、植苗ファミセン、沼ノ端交流センター）で貸出サービス等を行うための図書館システム等の賃借料です。						
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p>  <p>年間約15万人の利用者への貸出サービス等をスムーズに行い、また約57万冊の資料データや利用者データを適切に管理するために必要な機能を備えたシステムです。</p> <p>主に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館資料の貸出、返却、資料検索及び利用者データの登録 ・ 登録データの管理・保存 ・ インターネットを利用した資料の検索・予約サービス ・ 総務省通達の自治体セキュリティ強化対策に基づくネットワーク強靱化に係る対応を行っています。 						
実施結果（活動指標）		指標名		単位	R3年度	R2年度	R1年度	
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性	●				図書館資料の貸出、返却、予約サービス、蔵書管理等といった図書館の基本的なサービスを行う上で必要不可欠であることから「4」としました。			
効率性		●			平成30年度のシステム更新により、安定的な運用と図書館利用者へのサービスを向上させることができたため「3」としました。			
公平性	●				市内在住又は市内に通勤・通学している方なら誰でも利用可能な図書館システムであることから、「4」としました。			
将来性	●				本事業については、図書館を運営していくうえで必要不可欠であり継続して実施していく必要があることから「4」としました。			
総合評価		A				項目評価のとおりおおむね目的に適った事業を展開できており、今後も継続して図書館利用者へのサービス向上、及び安定的な運用を図ります。		
特記事項		令和5年度にシステム更新を予定しています。						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 02社会教育施設費

事務事業番号 10040202

事業名		社会教育施設補償金		担当部署	教育部 生涯学習課						
根拠法令											
令和3年度決算額		5,934	千円	項目評価				総合評価 A			
財源内訳	国道支出金		千円								
	地方債		千円								
	その他		千円								
	一般財源	5,934	千円								
事業費（総計）		6,499	千円								
決算額		5,934	千円								
人件費		565	千円								
事業の目的		新型コロナウイルス感染症対策に伴うイベント等の中止や施設の利用制限による利用料金の減収に対する指定管理者への補てんを目的としています。									
事業の内容 SDGs17の目標		指定管理者が施設の運営に要する経費として指定管理料と利用料金収入を見込んでおり、新型コロナウイルス感染症対策として施設の利用制限を行ったため利用料金が減収したことから、これを補てんする事業です。									
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度			
項目評価		高一低				評価の理由					
		4	3	2	1						
有効性		●							管理運営の安定確保に十分な効果があることから、「4」としました。		
効率性			●						事業実施により管理運営が安定したことから、「3」としました。		
公平性		●							施設を利用する市民の利用機会が継続して平等に与えられたことから、「4」としました。		
将来性					●	事業実施することで、継続して確実な管理運営ができましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が見通せないため、「1」としました。					
総合評価		A				利用料金は管理運営の一部となっており、補てんすることで指定管理者は従前どおりの管理運営が継続できました。					
特記事項											

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 02社会教育施設費

事務事業番号 10040203

事業名		社会教育施設整備		担当部署	教育部 生涯学習課			
根拠法令								
令和3年度決算額		3,793	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金		千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	3,793	千円					
事業費（総計）		4,780	千円					
決算額		3,793	千円					
人件費		987	千円					
事業の目的		指定管理施設（文化会館、中央図書館）の維持管理に必要な経費としています。						
事業の内容 SDGs17の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・文化会館のワイヤレスマイクを電波法改正により更新しました。 ・中央図書館の消防設備（シャッター自動開閉装置等）を交換しました。 						
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性	●				ワイヤレスマイクは期限までに更新ができたとともに、消防設備は非常時稼働するよう交換できたことから、「4」としました。			
効率性		●			本事業は、将来にわたって効果が得られると考えられるため、「3」としました。			
公平性	●				本事業により利用者の安全安心が確保できることから、「4」としました。			
将来性	●				更新等により、今後も安心安全の確保ができることから、「4」としました。			
総合評価		A				施設設備の更新により、安全安心な施設利用が可能となりました。		
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 03公民館費

事務事業番号 10040301

事業名		勇払公民館整備事業		担当部署	教育部 勇払公民館			
根拠法令								
令和3年度決算額		10,746	千円	項目評価	有効性			
財源内訳	国道支出金	10,500	千円		総合評価 A			
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	246	千円					
事業費（総計）	16,553	千円						
決算額		10,746	千円					
人件費		5,807	千円					
事業の目的		老朽化による公民館内部改修・備品の整備						
事業の内容		1. 内部改修工事（講堂床改修工事・ミーティングルーム絨毯張替・和室畳張替・折り畳み式座卓、スタッキングチェア購入） 2. 消防用設備改修工事 3. 備品購入（冷凍冷蔵庫）						
SDGs17の目標								
実施結果（活動指標）				単位	R3年度	R2年度	R1年度	
内部改修工事				箇所	3	-	-	
折り畳み座卓、スタッキングチェア購入				台、脚	10、37	-	-	
消防設備改修工事				回	1	-	-	
冷凍冷蔵庫購入				台	1	-	-	
項目評価		高→低		評価の理由				
		4	3	2	1			
有効性		●				内部改修工事、消防設備改修工事により利用者の安全性の向上が図られたため「4」としました。		
効率性		●				施設の持続的な保守を計画的に行い、必要最低限の改修工事を行ったことから「4」としました。		
公平性		●				施設利用者に対して施設改修、備品購入をしたことから「4」としました。		
将来性		●				令和3年度のみ実施する事業ではありますが、改修や備品購入等を行うことで、将来的に持続した施設となることから「4」としました。		
総合評価		A		項目評価のとおり、目的に適した事業展開となっていることから、総合評価「A」としました。				
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費

目 05美術博物館費

事務事業番号 10040501

事業名		遺跡発掘調査等事業		担当部署	教育部 美術博物館			
根拠法令								
令和3年度決算額		1,714	千円	項目評価				総合評価 A
財源内訳	国道支出金	857	千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	857	千円					
事業費（総計）		7,348	千円					
決算額		1,714	千円					
人件費		5,634	千円					
事業の目的		苦東開発地域内での遺跡の有無と範囲を確認し開発のスムーズな進行を図ります。						
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>1 埋蔵文化財（遺跡）の把握については、各地域の状況を最も適切に把握することができる市町村教育委員会が行うこととし、埋蔵文化財保護と開発事業との円滑な調整を図るため、積極的に分布調査を行うこととされています。</p> <p>2 苦東柏原・静川地区での調査では、平成25年度までの5ヶ年計画で24ヶ所の遺跡が確認されたため、事業は平成26年度以降も継続して実施され、平成30年度までに15ヶ所の遺跡が確認されました。令和元年度からは新たな5ヶ年計画をすすめ、これまで13ヶ所の新たな遺跡が確認されています。調査は未調査地区等を対象として、文化庁の補助事業として実施しています。対象地区では重機と作業員により掘削と精査を行い、埋蔵文化財包蔵地の有無とその範囲を確認しました。</p>						
実施結果（活動指標）		指標名	単位	R3年度	R2年度	R1年度		
		遺跡発掘	箇所	6	5	3		
項目評価		高→低		評価の理由				
		4	3	2	1			
有効性		●				平成21年度から13年間継続して事業を行った苦東地区では、遺跡の様相が明らかになることで開発事業もスムーズに展開しており、有効性は高いといえます。		
効率性		●				文化庁の文化財関係国庫補助事業を申請し、5割を国庫補助金で補い、事業を推進しました。		
公平性		●				企業を含む多くの市民と連携して、公平性を保つよう事業を推進しました。		
将来性		●				市内の民間開発事業を含む各種工事に先立つ発掘調査、試掘調査を進めることは、総じて事業全てが円滑に執り行われる一方、文化財の保護、普及にも繋がります。将来的にも有効であると考えます。		
総合評価		A		項目評価のとおり、苦東地区での遺跡の有無の確認や市内の開発事業に先立つ試掘調査を進めることは、開発事業が円滑に執り行われ、埋蔵文化財の保護にもつながります。これらの事業の両立を図るために今後も継続して実施してまいります。				
特記事項								

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費 項 04社会教育費 目 05美術博物館費 事務事業番号 10040502

事業名		美術博物館企画展示事業		担当部署	教育部 美術博物館			
根拠法令								
令和3年度決算額		3,621	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円					
	地方債		千円					
	その他	2,005	千円					
	一般財源	1,616	千円					
事業費（総計）		7,847	千円					
決算額		3,621	千円					
人件費		4,226	千円	総合評価				
				A				
事業の目的		地域の自然や歴史、文化について理解を深めてもらうとともに、美術館基本構想及び基本計画に掲げた「市民に開かれた美術館」「子どもたちの感性を育む美術館」「文化芸術活動の拠点としての美術館」の3つの基本理念を実現します。						
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p> <p>1 「コイノボリ大火と苦小牧消防史」 令和3年4月29日～7月4日 大正10(1921)年5月1日に苦小牧町(現在の苦小牧市大町3条通り)で発生した火災「コイノボリ大火」に関する歴史や、明治時代から現在に至るまでの苦小牧の消防制度の変遷について紹介しました。</p> <p>2 「ラムサール条約登録30年ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」 令和3年10月9日～12月12日 希少な湿原であるウトナイ湖の30年間の変遷を、動植物の標本や歴史資料などを展示して紹介しました。</p> <p>3 「NITTAN ART FILE4:土地の記憶」 令和4年1月15日～3月13日 「土地の記憶」をテーマに、固有の場所につわる歴史やそこに蓄積されていく記憶を源泉とする表象(感覚的に思い浮かべられる知覚や心象、観念など)を、美術家、版画家、写真家、構造家という4人の現代作家たちの芸術表現によりご覧いただく機会を設けました。</p>						
実施結果(活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		企画展事業数			回	3	4	4
		企画展入館者数			人	7,958	7,439	10,316
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性			●			歴史、自然、美術と分野の違う展示会を実施し、様々な層の来館を促しました。昨年に引き続き、新型コロナウイルスによる影響はあったものの、来館者数は昨年より若干増加したため「3」としました。		
効率性		●				展示会3回に加え、9回以上の関連行事を開催し、教育普及面でも効果の高い事業を実施しました。また、展示準備の過程で、資料の収集や新たな知見を得られた展示会もありました。		
公平性		●				小中学生から一般まで、多くの市民が平等に学ぶ楽しさを提供することができました。		
将来性		●				「地域の自然や歴史、文化について理解を深めてもらう」という館の基本理念を今後も継続していく必要があります。		
総合評価		A				項目評価のとおり概ね目的に沿った事業を展開できていますが、より効果的な事業とするため、来館者アンケートの分析などを進め、今後も継続的に地域の歴史・自然・文化を伝える取組を実施していきたいと考えます。		
特記事項		コロナ禍でありながら、昨年度より利用者数は微増しました。						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費

項 04社会教育費



目 05美術博物館費

事務事業番号 10040503

事業名		美術博物館特別展事業		担当部署	教育部 美術博物館			
根拠法令								
令和3年度決算額		5,417	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金		千円					
	地方債		千円					
	その他	2,465	千円					
	一般財源	2,952	千円					
事業費（総計）		8,939	千円					
決算額		5,417	千円					
人件費		3,522	千円	総合評価	A			
事業の目的		本事業は、「苫小牧市美術博物館基本計画」において目指される「文化芸術活動の拠点としての美術館」の実現を目的に実施しています。						
事業の内容 SDGs17の目標		 <p>1 特別展「発掘された日本列島2021」 令和3年7月31日～9月12日 全国の最新の発掘成果などがわかる文化庁などが主催の全国巡回展「発掘された日本列島」を北海道では14年ぶり、苫小牧では初めて開催しました。</p>						
実施結果 (活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		特別展入館者数			人	1,428	2,911	3,889
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性			●			北海道ではこれまであまり開催されてこなかった考古学系の全国巡回展であり、市内外の多くの方に関心を持っていただきました。コロナ禍により開催期間、入館者数が減少したことから「3」としました。		
効率性		●				文化庁が主催機関として入っており、この規模の巡回展としては事業費の負担が少ない形で実施できました。		
公平性		●				北海道ではなかなか見ることのできない本州以南の最新の発掘成果を見ることができ、考古学に興味がある人だけでなく幅広く貴重な考古学・歴史資料を見ていただく機会を提供できたと考えます。		
将来性		●				文化芸術の活動拠点として、また日本列島各地の多様な地域文化に触れる機会を設けることができ、適切な事業であったと考えます。		
総合評価		A				展示会開催にあたって文化庁、共同通信社、北海道新聞社など共同主催機関と調整のうえ、全国各地より一般公開が初めてのものも含めて多様な資料を借用しました。また、国指定史跡静川遺跡を含む環壕遺構を持つ遺跡についても紹介することができました。		
特記事項		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より入館自粛の要請、休館措置などの影響により、前年度よりも利用者数が減少しました。						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 10教育費 項 04社会教育費 目 05美術博物館費 事務事業番号 10040504

事業名		アイヌ文化関連展示整備事業		担当部署	教育部 美術博物館			
根拠法令								
令和3年度決算額		1,011	千円	項目評価				
財源内訳	国道支出金	810	千円					
	地方債		千円					
	その他		千円					
	一般財源	201	千円					
事業費（総計）		5,237	千円					
決算額		1,011	千円					
人件費		4,226	千円	総合評価				
				A				
事業の目的		地域に存するアイヌ文化を発信し、アイヌ民族の歴史や文化に対する市民の理解を深め、アイヌの人々が誇りを持って生活し、その誇りが尊重される地域社会の実現を目指します。						
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p>   <ol style="list-style-type: none"> 「蝦夷風俗十二ヵ月屏風デジタル化業務」 常設展示室「アイヌの暮らし」コーナーにおいて展示している「蝦夷風俗十二ヵ月屏風」を、カラーコルトン(透過式カラー写真フィルム)仕様から、タッチパネル式デジタル仕様に変更するとともに、アイヌ文化を紹介する新たな画像メニューを組み込みました。 「アイヌ文化関連講座の開催」 アイヌ民族のアットゥシ織りの実演及び手法を解説する講演会「アットゥシ織りの世界」、伊達市有珠地区の発掘調査で明らかになったアイヌ文化の講演会「発掘調査からわかるアイヌ文化」の2講座を実施しました。 						
実施結果(活動指標)		指標名			単位	R3年度	R2年度	R1年度
		美術博物館利用者数			人	18,362	19,915	28,643
項目評価		高→低				評価の理由		
		4	3	2	1			
有効性			●			アイヌ文化を理解しやすく紹介する目的は達成しましたが、コロナ禍により前年度より入館者数が減少したことにより「3」としました。		
効率性		●				事業費の8割を国のアイヌ政策推進交付金を活用することで、効率的に実施することができました。		
公平性		●				市内外を問わず、幼児から一般まで多くの方がアイヌ文化に触れる機会を提供することができました。		
将来性		●				5ヵ年計画でアイヌ文化に関する展示更新とアイヌ講座を実施することにより、今後も継続的にアイヌ文化の発信が可能になると考えます。		
総合評価		A				項目評価のとおり概ね目的に沿った事業を展開できていますが、今後は資料調査や情報の収集などを通じて、より効果的な事業を展開していきたいと考えます。		
特記事項		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より入館自粛の要請、休館措置などの影響により、前年度よりも利用者数が減少しました。						